

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|--|--------------|-------------------------|--|
| 看護物理学 | 看護学科/2年次 | 令和3年度/後期 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30 時間) | 必須 | 山下 和良(非常勤) 実務経験有 |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>医療機器や看護技術に応用している物理学の原理・原則を学ぶことをねらいとする。</p> <p>[科目終了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1.質点の力学・圧力を学び、看護技術の根拠が説明できる。 2.医療機器類に援用している電気・音・光の原理・性質を説明できる。 3.流体・圧力の知識を応用し、吸引・吸入などの医療機器を用いた看護技術の根拠を説明できる。</p> <p>【実務経験】山下和良:総合病院にて臨床工学士として従事し豊富な実務経験を有する 臨床工学士の実践を教材とし、学生がイメージしやすいよう授業を展開する</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回の授業内容を予習し授業に臨む</p> | | | |
| [授 業 の 内 容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| 1 | 力学 | 1)物と姿勢の安定性 | ★各章の終了時には、付録の課題 問題を実施する。 ・重心と脊柱への影響 ・ボイルの法則に従い正しいセッティング ・小児用・成人用点滴セットによる流量設定 ・静脈圧とボトルの高さ ・低圧持続吸引装置の原理 ・胃洗浄とサイフォンの原理 ・ネブライザーの原理 ・オートクレーブの原理 ・伝導、対流、放射の原理と保温 ・放射線については放射線学で講義 |
| 2 | | 2)物を持ち上げる姿勢と力 | |
| 3 | | 3)力の方向と大きさを変える滑車 | |
| 4 | 圧力 | 4)曲がる時にかかる力と止まる時にかかる力 | |
| 5 | | 5)滑りにくい床 | |
| 6 | | 6)入浴中の体重 | |
| 7 | 熱 | 1)点滴静脈内注射 | |
| 8 | | 2)吸引機 | |
| 9 | | 3)人工心臓・人工肺 | |
| 10 | 電気 | 4)人工透析器 | |
| 11 | | 1)身体の冷却 | |
| 12 | | 2)衣服や寝具による保温 | |
| 13 | 光 | 3)アルコール清拭、人体の熱産生 | |
| 14 | | 4)冷蔵庫の原理 | |
| 15 | | 1)電気機器の安全性 | |
| 16 | 音と振動 | 2)電気メス | |
| 17 | | 3)心電図 | |
| 18 | | 4)電子体温計・テレメーター | |
| 19 | 試験 | 1)明るさの測定、光と色 | |
| 20 | | 2)レンズ・内視鏡 | |
| 21 | | 3)パルスオキシメーター | |
| 22 | 試験 | 4)レーザーメス | |
| 23 | | 1)聴診器 | |
| 24 | | 2)振動の人体への影響 | |
| 25 | 試験 | 3)音波と超音波 | |
| 26 | | 4)超音波ドップラー法 | |
| 27 | | 5)体外衝撃波結石破碎機 | |
| 28 | 試験 | 6)マイクロホンとスピーカー | |
| 29 | | 上記終了後、期末試験 | |
| 30 | | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・必要時資料配布いたします | | 科目終了時の最終試験の評価 | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科 / 学年 | 年度 | 授業形態 |
|---|-------------------------|--|---------------------------------------|
| コンピュータ情報処理演習 | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30時間) | 必須 | 田井 麻友美(非常勤) 実務経験有 |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>コンピュータによる情報処理の実技を学び、看護に活用できる技術を身につける。 ワードプロットを用いてレポートや研究論文が作成できる。 表計算ソフトを用いて表の集計やグラフによる視覚的表現、数量データ・計数データを分析・推測・検定する。 検索や電子メールなどインターネット技術を活用する。 プレゼンテーションソフトを用いて効果的なプレゼンテーションを行う技能を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ワードプロット(Word)を使って、業務に必要な基本的な資料作成ができる。 2. インターネットや電子カルテシステムを活用して必要な情報を取得するために必要な技術を習得する。 3. 統計ソフト(Excel)の基本的な操作ができ、基本統計量を算出できる。 4. プレゼンテーションソフト(PowerPoint)を中心に、使用方法ををマスターし効果的なプレゼンテーションができる。 <p>【実務経験】田井麻友美:PCインストラクターとして豊富な経験(学校での教授含む)を有し、情報処理技能に精通し教授活動を実践している。知識・技術ならびに情報管理について主体的に学べるよう授業を展開する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p> | | | |
| [授業の内容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| 1 | パソコンを用いた演習 (OS) | 1)Windows Vistaの基本操作 | ・Windows Vistaの基本操作 パソコン設備の利用の仕方 |
| 2 | パソコンを用いた演習 (ワープロ) | 1)Wordの基本操作 | ・Wordの基本操作 |
| 3 | 〃 | 2)文字の入力 3)文書の作成 | ・文章、グラフ・表による表現 |
| 4 | 〃 | 4)レポートの作成方法 | ・レポート作成に利用 |
| 5 | パソコンを用いた演習 (エクセル) | 1)Excelの基本操作 | ・Excelの基本操作 表の作成と表計算機能の活用 |
| 6 | 〃 | 2)数式・関数の入力 | ・関数を利用した効果的な表計算の活用 |
| 7 | 〃 | 3)グラフ表現 | ・効果的なグラフの作成 |
| 8 | 〃 | 4)統計・解析 | ・量的データ・質的データの相違、集計方法の実際 |
| 9 | パソコンを用いた演習 (インターネット) | 1)インターネットを使った情報検索 | ・YAHOO・Googleで情報の検索 専門の文献検索・メールの活用 |
| 10 | パソコンを用いた演習 (ワープロ) | 1)PowerPointの概要と基本操作 2)PowerPointの応用操作 | ・PowerPointの基本操作 |
| 11 | パソコンを用いた演習 (看護研究) | 1)看護研究(テーマ選定) | ・「100の指標からみた香川(医療・福祉)」より研究テーマを選定する |
| 12 | 〃 | 2)看護研究(計画書の制作) | ・テーマに基づいて調査データを分析し、仮説を立てる |
| 13 | 〃 | 3)看護研究(情報収集・分析) 4)看護研究(パワーポイントの制作①) | ・調査データの図・表の作成 |
| 14 | 〃 | 4)看護研究(パワーポイントの制作②) | ・全体構成および発表原稿の制作 |
| 15 | プレゼンテーション 試験 | 5)プレゼンテーション 上記終了後、期末試験 | ・設定したテーマに基づき発表する |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・よくわかるMicrosoft Word2010&Microsoft Excel1210&Microsoft Power Po2520 ・必要資料はプリントで配布 | | 1) 科目終了時の発表評価 : 60% 2) 提出物評価 : 30% 3) 出席 : 10% | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学 科 / 学 年 | 年 度 / | 授 業 形 態 |
|---|-----------------------|--|---------------|
| コミュニケーション トレーニングⅡ | 看護学科 / 2年次 | 令和3年度 | (講義)・(演習)・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1 単位 (30 時間) | 必須 | 高橋 加代(実務経験有) |
| <p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>コミュニケーションは看護職に求められ、相手を理解し相手との関係を築くプロセスである。コミュニケーションを学び、成人看護学実習時に自己評価・他者評価(指導者・教員)により自己のコミュニケーション能力を自己分析する。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1) 現時点での学生個々のコミュニケーション・スタイルを診断し気付きを得ることができる。 2) 考え方を学ぶだけでなくディスカッションやロールプレイでスキルを身につけることができる。 3) 学習した考え方やスキルを使って、臨地実習での問題を解決するシミュレーションを行い、自己理解と自信を深めることができる。</p> <p>【実務経験】高橋加代:看護師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践経験を教材とし、学生の特性をふまえて患者・家族ならびに医療職との良好な関係構築のための、コミュニケーションスキル習得につながる授業を展開する</p> <p>【準備学習】 前回の授業内容を復習して授業に臨む</p> | | | |
| [授 業 の 内 容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学 習 の ポ イ ン ト |
| 1 | コミュニケーションの 自己評価 | 1) コミュニケーションの自己評価シートの記入 2) BCSA事前の受診と活用 | 自己のスキルの不足に気付く |
| 2 | 臨地実習における コミュニケーション | 1) 臨地実習におけるコミュニケーション | |
| 3 | 指導者とのコミュニケー ション | 1) 信頼情報の発信 | |
| 4 | " | 2) 共感情報の発信 | |
| 5 | " | 3) ケーススタディ1 | |
| 6 | " | 4) 共感情報の受信 | |
| 7 | " | 5) 理論情報の発信 | |
| 8 | " | 6) ケーススタディ2 | |
| 9 | 患者さんとのコミュニケー ション | 1) 信頼情報の発信 | |
| 10 | " | 2) 共感情報の発信 | |
| 11 | " | 3) ケーススタディ1 | |
| 12 | " | 4) 共感情報の受信 | |
| 13 | " | 5) 理論情報の発信 | |
| 14 | " | 6) ケーススタディ2 | |
| 15 | 臨地実習後の振り返り | 1) 臨地実習でのコミュニケーション評価 (360度評価) | |
| 試験 | | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| 平成23年看護師育成のための医療現場と連携した現場適応力の教育プログラム開発分科会編: 専門学校生に求められるコミュニケーション力育成テキスト | | 1) 科目終了時の最終試験の評価(筆記試験): 100% | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科/学年 | 年度 | 授業形態 |
|--|-------------|---|-----------------------------------|
| 人体の構造学Ⅲ | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位(30時間) | 必須 | 南原 由理子(実務経験有) 太田 健一 (非常勤)実務経験有 |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>既習の人体の機能学・構造学の知識を解剖実習により統合し、人体への理解を深め科学的看護の基盤にすることをねらいとする。また献体を通して人間の尊厳を学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1.人体の構造を系統的(脳・神経・感覚器・骨・運動器・呼吸器・循環器・消化器・腎泌尿器・生殖器)に目視し、主要な器官・臓器について解剖学用語を用いて説明できる。</p> <p>2.理解した構造を人体として統合し、フィジカルアセスメントや看護ケア上の根拠として活用できる。</p> <p>3.看護の対象となる人間の尊厳と医療人としての自覚を深め、献体に対して謙虚な態度をとることができる。</p> <p>【実務経験】太田健一:大学において本科目に精通し、教授活動、研究活動を行っている。 解剖見学実習をとおして学生が人体の構造について知識習得できるよう支援。 南原由理子:看護師として5年以上の実務経験。 臨床現場での対象理解(疾患・症状理解)や対象尊重の大切さを学生に伝えるとともに学生の知識習得を支援。</p> <p>【準備学習】 授業の復習、解剖見学事前課題にて学習を深める</p> | | | |
| [授業の内容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| 1 | 献体について | 1)解剖学とは | 講義と確認テスト |
| 2 | 授業のOR | 2)献体について | |
| 3 | 調べ学習 | 1)演習オリエンテーション | 調べ学習について |
| 4 | 調べ学習 | 2)課題学習について | 課題割り振り |
| 5 | 学生講義 | ・脳の構造と機能 | 学生講義 |
| 6 | 学生講義 | ・呼吸器の機能と構造 | |
| 7 | 学生講義 | 以下の系統別に分けて調べ学習を行う。 | |
| 8 | 学生講義 | 発表のための資料作成。発表時間は10分 | |
| 9 | 学生講義 | そのあと、意見交換 | |
| 10 | 学生講義 | ①循環器系、 | |
| 11 | 学生講義 | ②細胞・組織器官系、 | |
| 12 | 学生講義 | ③呼吸器系、消化器系 | |
| 13 | 学生講義 | ④腎臓・泌尿器系 | |
| 14 | 学生講義 | ⑤骨・運動器系 | |
| 15 | 学生講義 | ⑥脳神経系 | |
| 16 | 学生講義 | ⑦血液・免疫系 | |
| 17 | 解剖実習について | 1)人間の尊厳と医療人としての自覚 | 4回から8回目までの学生講義では、積極的に意見交換を行う |
| 18 | 解剖実習について | 1)手引きの説明とグループ学習 | |
| 19 | OR(1年生との合同) | 2)医の倫理の読み合わせと確認 | |
| 20 | 解剖見学実習 | 1)循環器・呼吸器(外系) | |
| 21 | 解剖見学実習 | 2)骨格と筋肉系 | 11回目から14回目までの授業は解剖見学実習で学ぶ |
| 22 | 解剖見学実習 | 3)脳の構造 | 見学実習において午後からの実習は、1年生への指導を行う |
| 23 | 解剖見学実習 | 1)心臓と呼吸器系の構造 | |
| 24 | 解剖見学実習 | 2)消化器系の構造 | |
| 25 | 解剖見学実習 | 3)腎・泌尿器系の構造 | |
| 26 | 解剖見学実習 | 4)生殖器系の構造 | |
| 27 | 人体の構造のまとめ | 1)人間の尊厳と医療人としての自覚 | ・解剖体について理解 ・献体に対する謙虚な態度 |
| | | レポート作成 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 ・竹尾恵子:看護技術プラクティス 改訂3版、学研 | | 1)学習態度・授業参加状況(出席・遅刻を含む) 50% 解剖実習全日の出席が必要である。 2)課題学習状況と確認テスト 20% 3)課題レポート 10% | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| | | | |
|-------------|-------------|----------|------------|
| 科目名 | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
| 臨床栄養学 | 看護学科/ 2年次 | 令和3年度/前期 | (講義)・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30時間) | 必須 | 加村 晴美(非常勤) |

[授業の目的・ねらい]

健康の保持増進を踏まえた食生活の基本を理解するとともに、医療チームにおける看護師として必要な臨床栄養学のエビデンスから実践までの知識を身につける

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 基本であるバランスのとれた食生活について説明できる
2. 栄養素、適正栄養量など栄養学の基本について説明できる
3. 各疾患に応じた食事療法について説明できる
4. 医療チームにおける看護と臨床栄養学の関連を説明できる

[授業の内容]

| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
|----|------------|---|-------------------------------|
| 1 | 臨床栄養学の基礎知 | 1)栄養とは・・・栄養と栄養素、栄養素の分類 2)病院の食事について | ・栄養と栄養素の種類と性質 ・病院給食の概要 |
| 2 | 臨床栄養学の基礎知識 | 1)栄養とは・・・栄養素の分類 2)栄養表示について | ・栄養素の役割と臨床的意義 ・身近な栄養表示を知る |
| 3 | 臨床栄養学の基礎知識 | 1)栄養アセスメント | ・栄養アセスメントの判定方法と判定基準 |
| 4 | 食品成分と食事摂取基 | 1)食品成分とエネルギー | ・食品の成分とエネルギー消費量 ・食品の分類 |
| 5 | 食品成分と食事摂取基 | 1)食事摂取基準 | ・日本人の食事摂取基準2020の活用 |
| 6 | 日常生活と栄養 | 1)食文化 2)運動と栄養 | ・日本型食生活の長所と課題 ・運動時の栄養の役割 |
| 7 | 日常生活と栄養 | 1)人生各期における健康生活と栄養 (乳幼児期、学童期、青年期) | ・各年代の特徴と望ましい食生活 |
| 8 | 日常生活と栄養 | 1)人生各期における健康生活と栄養 (成人期、妊娠・授乳期、高齢期) | ・各年代の特徴と望ましい食生活 |
| 9 | 療養生活と栄養 | 1)治療による回復を促すための食事と栄養管理 2)栄養成分別のコントロール食 | ・検査食、術後食、化学療法者食 ・成分別栄養管理 |
| 10 | 療養生活と栄養 | 1)嚥下障害のある人のための食事 2)経口摂取できない患者のための栄養管理 | ・学会分類2013 ・経管栄養法・中心静脈栄養法 |
| 11 | 疾患別の食事療法 | 1)消化器系疾患の食事療法 | ・各疾患の食事療法 胃潰瘍、潰瘍性大腸炎、肝硬変ほか |
| 12 | 疾患別の食事療法 | 1)内分泌・代謝疾患の食事療法 | ・各疾患の食事療法 糖尿病ほか |
| 13 | 疾患別の食事療法 | 1)循環器系疾患の食事療法 | ・各疾患の食事療法 高血圧症ほか |
| 14 | 疾患別の食事療法 | 1)腎疾患の食事療法 | ・各疾患の食事療法 CKDほか |
| 15 | 食事指導の実際 | 1)健康増進のための食事指導 2)食習慣改善のための食事指導 | ・食生活指針 ・望ましい支援の方法 |

[使用テキスト]

・関戸恵子 編:ナーシンググラフィカ 疾病のなりたち④
「臨床栄養学」MCメディカ出版
・「新食品成分表」東京法令出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価:80%
- 2)出席状況及び課題提出物の評価:20%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科 目 名 | 学 科 / 学 年 | 年 度 | 授 業 形 態 |
|---|-----------------|--|---|
| 疾病治療学Ⅱ (内分泌・免疫・血液) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授 業 の 回 数 (×90分) | 単 位 数 (時 間 数) | 必 須 ・ 選 択 | 授 業 担 当 者 |
| 15回 | 1 単 位 (30 時 間) | 必 須 | 井垣俊郎/猪尾昌之/田岡輝久 (非常勤)実務経験有 |
| <p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域(内分泌・免疫・アレルギー・血液・造血器疾患)にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。</p> <p>[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1.患者の身体で起きている現象を説明できる。 2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。 3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。</p> <p>【実務経験】井垣俊郎・猪尾昌之・田岡輝久:医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。 内分泌疾患・免疫疾患・血液疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例を用い授業方法を工夫し教授する。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p> | | | |
| [授 業 の 内 容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学 習 の ポ イ ン ト |
| 1 | 内分泌・代謝系疾患 | 1) 内分泌機能・内分泌器官 【担当:富岡】 | ・内分泌・代謝系疾患について具体的事例を通して学ぶ |
| 2 | 〃 | 2) 内分泌・代謝系疾患の症状 血糖異常 肥満 やせ | |
| 3 | 〃 | 3) 内分泌・代謝系疾患の診断・検査 血液検査 ホルモン定量 負荷試験 | |
| 4 | 〃 | 4) 内分泌・代謝系疾患 糖尿病 クッシング症候群 甲状腺がん | |
| 5 | 〃 | 5) 内分泌・代謝系疾患の治療 | |
| 6 | 免疫・アレルギー系疾患 | 1) 免疫・アレルギー系の病態生理 【担当:猪尾】 | ★理解度確認テスト ・免疫・アレルギー疾患について具体的事例を通して学ぶ |
| 7 | 〃 | 2) 免疫・アレルギー系疾患の症状 痛み 発熱 皮疹 臓器症状 | |
| 8 | 〃 | 3) 免疫・アレルギー系疾患の診断・検査 | |
| 9 | 〃 | 4) 免疫・アレルギー系疾患 自己免疫疾患(SLE 関節リウマチ) 膠原病 | |
| 10 | 〃 | 5) 免疫・アレルギー系疾患の治療 | |
| 11 | 血液・造血器疾患 | 1) 血液・造血器の病態生理 【担当:田岡】 | ・血液・造血器疾患について具体的事例を通して学ぶ |
| 12 | 〃 | 2) 血液・造血器疾患の症状 | |
| 13 | 〃 | 3) 血液・造血器疾患の診断・検査 | |
| 14 | 〃 | 4) 血液・造血器疾患 急性白血病 悪性貧血 悪性リンパ腫 | |
| 15 | 〃 | 5) 血液・造血器疾患の治療 手術療法 骨髄移植 幹細胞移植 | |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・明石 恵子編:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護②栄養代謝機能障害 メディカ出版 ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護③造血器障害/免疫機能障害 メディカ出版 ・矢野久子他 編:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 メディカ出版 ・中島恵美子他 編:ナーシング・グラフィカ成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 [参考図書] ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 | | 1)最終試験評価:100% | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科/学年 | 年度 | 授業形態 |
|--|-----------|---|----------------------------------|
| 疾病治療学Ⅲ (運動器・腎泌尿器・生殖器) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位(30時間) | 必須 | 松下誠司/小橋嵩平 他/川田清彌 (非常勤)実務経験有 |
| <p>[授業の目的・ねらい] 科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域(運動器・腎泌尿器、女性生殖器)にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1.患者の身体で起きている現象を説明できる。 2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。 3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。</p> <p>【実務経験】松下誠司・小橋嵩平他・川田清彌:医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。 運動器疾患・腎疾患・泌尿器疾患・婦人科疾患の基礎的知識習得ができるよう、事例等を用い授業を行う。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p> | | | |
| [授業の内容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| 1 | 運動器疾患 | 1)治療法の種類 【担当:松下】 保存的治療 | ※過去の国家試験 姿勢・運動にかかわる骨・関節・筋肉の疾患 |
| 2 | 〃 | ・薬物療法 ・牽引方法 | |
| 3 | 〃 | ・注射療法 ・装具・義肢 | |
| 4 | 〃 | 手術療法 | 運動機能障害による残存機能と リハビリテーション |
| 5 | 〃 | ・腱・末梢神経の手術 ・脊椎・脊髄の手術 | |
| 6 | 〃 | ・骨・関節の手術 | 活動や行動が制限されることにより発生する 疾患 |
| 7 | 腎・泌尿器疾患 | 2)主な運動器疾患 ・外傷・骨折・打撲・関節外傷 ・脊椎の疾患 ・神経の外傷、筋・腱含む ・腫瘍 ・先天性疾患、代謝性骨疾患 ・リウマチ性疾患、四肢の疾患 | ★理解度確認テスト |
| 8 | 〃 | 1)腎疾患 【担当:小橋】 ・腎の先天性奇形 | 排泄機能障害 |
| 9 | 〃 | ・腎盂・尿管の先天性奇形、性分化異常 ・急性・慢性腎不全 | ・腎・尿路の炎症 ・腎・尿路の腫瘍 |
| 10 | 〃 | ・代謝性疾患に伴う腎障害 ・腫瘍性疾患 | ・腎・尿路の通過障害 ・体液の調節障害 |
| 11 | 〃 | 2)泌尿器疾患 【担当:未定】 ・膀胱の疾患 ・尿道の疾患 ・陰茎・陰囊の疾患 | ★理解度確認テスト |
| 12 | 女性生殖器疾患 | 1)主な女性生殖器疾患 【担当:川田】 ・性感症、外陰・膣 ・腫瘍性疾患 | 思春期における性的成熟障害 |
| 13 | 〃 | ・子宮・卵巣の疾患 (不妊については疾病治療学V) | |
| 14 | 〃 | 2)女性生殖器の治療 ・ホルモン療法 | ★理解度確認テスト 加齢による生殖機能や性ホルモンの変化 |
| 15 | 〃 | ・化学療法 ・手術療法 | 女性生殖器・乳腺の疾患 |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護⑥内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害 メディカ出版 ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 メディカ出版 ・中島恵美子他 編:ナーシング・グラフィカ成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 | | 1)最終試験評価:100% | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科 / 学年 | 年度 / 時期 | 授業形態 |
|---|-------------|---|--|
| 疾病治療学Ⅳ (脳神経・放射線・精神疾患) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30 時間) | 必須 | 岡部昭延・非常勤講師・ (非常勤)実務経験有 |
| <p>[授業の目的・ねらい] 科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域(脳神経・放射線・精神疾患)にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)] 1.患者の身体で起きている現象を説明できる。 2.疾病の診断法・検査・症状・治療法を説明できる。 3.疾患に関連づけ看護場面で必要な観察のポイント、援助のポイントが説明できる。</p> <p>[実務経験] 岡部昭延: 医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。 非常勤講師: 大学病院等において豊富な経験を有し、教育に精通する。 高尾良子: 看護師として5年以上の実務経験。精神科領域の看護実践に精通している。 脳神経疾患・放射線療法・精神科疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例等を用い授業を行う。</p> <p>[準備学習] 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p> | | | |
| [授業の内容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| 1 | 脳神経疾患 | 1)保存的治療の適応 【担当:岡部】 ・脳脊髄循環障害 ・脳脊髄の感染症 ・脳・脊髄の変性疾患 | ※過去の国家試験 ・脳血管系の循環障害 ・頭蓋内圧亢進症状に伴う疾患 ・神経変性、脱髄性の疾患 ・認知症 |
| 2 | 〃 | ・脳・脊髄の機能性疾患 | |
| 3 | 〃 | 2)外科的治療の適応 ・脳脊髄循環障害 ・脳脊髄の感染性疾患 | ・頭部の外傷 ・二次的に意識障害・神経障害を起こす疾患 |
| 4 | 〃 | ・脳の機能外科 ・脳・脊髄の腫瘍性疾患 | ★理解度確認テスト |
| 5 | 〃 | ・外傷性疾患 | ・脳神経疾患の地域医療ネットワーク |
| 6 | 〃 | | ・放射線の医学利用 ・主な疾患の放射線治療 |
| 7 | 放射線診療 | 1)放射線の医学利用 【担当:非常勤】 ・放射線治療の効果と副作用 ・放射線治療までのプロセス | |
| 8 | 〃 | 2)がんと放射線診療 ・放射線化学療法 ・特殊な放射線治療 | ・MRI検査、核医学、血管造影 ★理解度確認テスト |
| 9 | 〃 | | |
| 10 | 精神疾患 | 1)精神症状と精神疾患 【担当:高尾】 (1)精神疾患総論 (2)精神作用物質による精神障害 (3)統合失調症 (4)気分障害 (5)神経症性障害 (6)心的外傷後ストレス障害(PTSD) (7)人格障害 (8)認知障害 | 精神症状の理解 主な精神疾患の病因・症状・診断・治療 |
| 11 | 〃 | | |
| 12 | 〃 | 2)医学的検査と心理検査 | 精神科領域の検査とその必要性 脳の変化と障害との関係 |
| 13 | 〃 | 3)治療の構造 (1)精神科における治療 (2)薬物療法 (3)精神療法 | 精神科医療における治療の考え方 治療の特徴と各障害への適応 |
| 14 | 〃 | (4)社会療法 (5)電気けいれん療法 | |
| 15 | 〃 | 4)嗜癖と依存 (1)依存のとらえ方 (2)逸脱行動と烙印 (3)治療・看護の特徴 | 嗜癖、依存と反社会的行動との関連 ★理解度確認テスト |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・田村 綾子 編:ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護④ 疾病と治療 メディカ出版 ・出口 禎子 編:ナーシンググラフィカ 精神看護学 ①情緒発達と看護の基本/精神看護学②精神障害と看護の基本 | | 1)最終試験評価:100% | |
| [参考図書] | | | |
| ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 | | | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科 / 学年 | 年度 / 時期 | 授業形態 |
|---|-----------------------|--|--|
| 疾病治療学Ⅴ (周産期・小児) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 16回 | 1単位 (30 時間) | 必須 | 川田 清彌(非常勤)実務経験有 磯部 健一(非常勤)実務経験有 |
| <p>[授業の目的・ねらい] 科学的根拠に基づいた看護実践のために、人体に起きている当該領域にかかわる疾患の臨床症状、検査所見、画像所見などについて学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(到達目標)] 1.妊娠・分娩・産褥各期の正常経過と異常の病理・要因について説明できる。 2.正常経過、異常経過の診断法、検査、治療法を看護実践との関連で説明できる。 3.がん発症のメカニズム、病態、治療を説明できる。 4.小児期における主要疾病の病因、病態生理、経過、予後、治療を説明できる。</p> <p>【実務経験】川田清彌・磯部健一:医師として豊富な経験を有し本科目に精通している。 周産期・小児疾患について基礎的知識習得ができるよう、事例等を用いて授業を行う。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p> | | | |
| [授業の内容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| | | 【担当:川田】 | |
| 1 | 【周産期の生理と疾患】 妊娠の生理 | 1)妊娠の定義 2)妊娠のメカニズム 3)胎児の発育 4)妊娠時の母体の変化 | <キーワード>・流産・早産・妊娠貧血・妊娠糖尿病・前置胎盤・常位置胎盤早期剥離・妊娠高血圧症候群・胎盤機能不全 <キーワード>遷延分娩・骨盤位分娩・胎児付属物異常・産科手術・胎児仮死 <キーワード>子宮復古不全・外陰・膣内の血腫・産褥熱・尿路感染・乳腺炎・産褥血栓性静脈炎・産褥精神障害 <キーワード>・AFD児・SFD児・早産児・頭血腫・帽状腱膜下出血・骨折・神経麻痺 <キーワード>原発性不妊・続発性不妊・女性不妊・男性不妊・人工授精・体外受精・生殖補助医療の手技・不育症 |
| 2 | ハイリスク妊娠 | 1)ハイリスク妊娠の定義 2)ハイリスク妊婦の管理に必要な検査 3)妊婦と胎児に見られる異常 | |
| 3 | 分娩の生理 | 1)分娩の定義 2)陣痛の発来機序 3)分娩の経過 4)分娩のメカニズム | |
| 4 | 産科麻酔 産婦に見られる異常 | 5)経膈分娩時、帝王切開時の麻酔 1)娩出力、産道、胎児、胎児付属物の異常 2)出血、産科手術、胎児機能不全 | |
| 5 | 産褥の生理 褥婦にみられる異常 | 1)産褥の生理2)産褥感染症、子宮復古不全 乳房の異常、産後の精神障害 | |
| 6 | 分娩に伴う新生児異常 | 1)低出生体重児 2)分娩損傷 | |
| 7 | 不妊・不育症 | 1)妊娠成立の障害 2)不妊症の検査 | |
| 8 | 〃 | 3)不妊原因に対する治療 4)生殖補助医療 | |
| | | 【担当:磯部】 | |
| 9 | 【小児期の疾患】 先天異常と新生児 | 1)遺伝子・染色体の異常と形態異常 2)新生児の疾患 | * 主な疾患に関連させて皮膚・感覚器の疾患も学ぶ ・呼吸窮迫症候群 ・超低出生体重児(未熟児網膜症) ・先天性食道閉鎖症・肥厚性幽門狭窄症 ・ヒルシュスプルング病 ・胆道閉鎖症・マイコプラズマ肺炎 ・ファロー四徴症・白血病 ・神経芽細胞腫 ・川崎病(目・皮膚の症状と後遺症) ・てんかん ・二分脊椎 ・ネフローゼ症候群 ・ペルテス病・自閉症など |
| 10 | 消化器疾患 | 1)食道・胃・腸の疾患 2)胆道・肝・消化器関連疾患 | |
| 11 | 呼吸器疾患 | 1)気道の疾患2)肺の疾患 | |
| 12 | 循環器疾患 | 1)小児の循環器疾患の特徴 2)先天性心疾患 | |
| 13 | 血液・腫瘍疾患 | 1)血液疾患 2)小児がん | |
| 14 | アレルギー・内分泌・代謝疾患 | 1)アレルギー性疾患 2)内分泌・代謝疾患 | |
| 15 | 神経・筋・腎尿路疾患 骨・関節疾患 | 1)痙攣、意識障害を主症状とする発作性疾患 2)外科的治療の対象になる小児神経疾患 3)腎疾患 | |
| 16 | 骨・関節疾患、感染症 精神領域の疾患 | 1)骨・関節疾患 2)細菌感染症・ウイルス感染症 3)小児の精神疾患 | |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害メディカ出版 ・中村綾美 編:ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 メディカ出版 ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 | | 1)最終試験評価:100% | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科 目 名 | 学 科 / 学 年 | 年 度 | 授 業 形 態 |
|---|----------------------|---|---------------------|
| リハビリテーション論 | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 |
| 授 業 の 回 数 (×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授 業 担 当 者 |
| 8回 | 1単位 (16 時間) | 必須 | 植野 英一(実務経験有) |
| <p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>リハビリテーションの概念を理解し、対象が社会の一員として生き生きと生活するための関係職種や看護の役割を学ぶ。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションを展開していく基本的枠組みを述べることができる。 2. 障害を抱える人に共通する特徴的な課題とそれに対する援助方法を述べるができる。 3. 代表的な疾患について発症から維持期に至るまでの経過全体をとらえつつ、各段階におけるリハビリテーションのポイントについて述べるができる。 <p>【実務経験】植野英一: 作業療法士として5年以上の実務経験。 臨床での経験を交えながら、学生が基本的な知識習得を図れるよう授業を行う。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p> | | | |
| [授 業 の 内 容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学 習 の ポ イ ン ト |
| 1 | リハビリテーション概論 | 1)リハビリテーションの定義と理念 2)障害者の実態と障害分類 | |
| 2 | 〃 | 1)リハビリテーションにかかわる職種 2)リハビリテーションのチーム医療 3)障害に対する態度 | |
| 3 | 〃 | 1)セルフケアへの援助 2)コミュニケーションと家族援助 | |
| 4 | 運動器の障害とリハビリテーション | 1)総論 2)骨折 3)関節リウマチ | MMT 関節可動域訓練 |
| 5 | 演習 | 1)関節可動域のはかりかた 2)可動域訓練と等尺性運動 | 演習(MMT、関節可動域、等尺性運動) |
| 6 | 中枢神経系の障害とリハビリテーション | 1)脳血管障害 2)パーキンソン症候群 3)脊髄損傷 | 自助具の活用 |
| 7 | 呼吸・循環器系の障害とリハビリテーション | 1)慢性閉塞性肺疾患 | 体位ドレナージ 呼吸理学療法 |
| 8 | 〃 | 1)虚血性心疾患 | 身体活動能力指数(SAS) |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・奥宮暁子:成人看護学⑥.リハビリテーション看護.メディカ | | 1)科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100% | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科/学年 | 年度/時期 | 授業形態 |
|---|------------------|--|--|
| 公衆衛生学 | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位(30時間) | 必須 | 浅川 富美雪(非常勤) 実務経験有 |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>公衆衛生活動は、個々の疾病予防に対する自然科学的なアプローチとともに、社会・経済の変化や、地域社会の文化・風俗・習慣とも密接に関連した、人々の行動や生活習慣に着目するという社会科学的な面からのアプローチを必要とし、政策、計画、運動、管理、研究、評価、予測、協力、調整といった具体的活動につながっている。</p> <p>生活者の健康の保持・増進、及び健康で活力ある社会の実現を図るために、自然科学と社会科学の両面から立体的にアプローチする公衆衛生学的方法を学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1.健康社会実現にむけた総合的な保健医療福祉および環境のあり方について理解できる。</p> <p>2.生活者の様々な健康問題を公衆衛生学的な視点で考えることができる。</p> <p>【実務経験】浅川富美雪:大学にて本科目に関する研究活動、教授活動を行っている。 事例等を活用しながら学生の理解を促進できるよう授業を行う。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p> | | | |
| [授業の内容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| 1 | 公衆衛生の理念 | 1)公衆衛生の目的とその方法・健康の概念と主観的健康 2)権利とプライマリーヘルスケア(PHC) | PHC・ヘルスプロモーション レベル&クラークの予防医学 |
| 2 | 公衆衛生の技術 | 1)疫学と健康指標 2)健康づくりを支援する新しい健康教育 | |
| 3 | " | 3)集団とコミュニティを対象とした政策立案 4)活動計画と実践評価のプロセス | |
| 4 | 医療の動向と医療保障 | 1)医療の動向 2)医療保障制度と医療経済 | 国民医療費・医療費の三要素 |
| 5 | 公衆衛生と国際化 | 1)公衆衛生と国際化・国際協力 2)情報公開と生命倫理 | |
| 6 | 地域保健 | 1)地域と健康 | 健康増進法・健康日本21 |
| 7 | 母子保健 | 1)健やか親子21・子育てと家族 2)リプロダクティブ・ヘルス/ライツとジェンダー | 厚生労働省・保健所・市町村保健センター |
| 8 | 学校保健 | 1)学校保健の理念と目的・学校保健のしくみと制度 2)学校保健の健康課題・養護教諭と保健室の機能 | 学校保健安全法 |
| 9 | 成人・老人保健 | 1)成人・老人保健 2)生活機能と保健活動 | |
| 10 | 精神保健 | 1)精神保健福祉法と障害者プラン 2)精神保健福祉の概念と施策の現状 3)個別事例の検討と連携とセルフヘルプ・グループ | 障害者自立支援法 |
| 11 | 難病保健 | 1)難病保健の歴史と現在・難病保健システム | |
| 12 | 生活環境 | 1)環境要因とは・公害からの教訓・地球環境問題 2)身のまわりの環境問題・環境保全のために | 典型7公害 |
| 13 | 産業保健 | 1)労働者を取り巻く状況・労働者の健康状態 2)働く人々の健康をまもる活動ー労働衛生対策の基本 3)産業保健に期待される活動 | 労働安全衛生法による健康診断 |
| 14 | 感染症・危機管理 | 1)感染症・危機管理・災害保健 | 国家試験の問題実施 |
| 15 | 公衆衛生における今日的課題と展望 | 1)看護をめぐる公衆衛生の動き・これからの保健医療福祉 2)社会経済の発展と公衆衛生・科学技術の進歩と公衆衛生 3)国際化社会における公衆衛生・公衆衛生における人材育成 | グループで解答を発表 なぜこの解答になったかのか (根拠を明らかにする) |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・わかりやすい公衆衛生学. ヌーヴェルヒロカフ | | 1)科目終了時最終試験評価:100% | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科/学年 | 年度 | 授業形態 |
|---|-----------------|--|--|
| 社会福祉・社会保障論 | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位(30時間) | 必須 | 辰巳 裕子(非常勤) 実務経験有 |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>憲法25条を中心とした社会福祉・社会保障の理念・法制度・体系等を学習し、社会福祉・社会保障の概要を把握する。社会福祉援助技術の視点・方法を理解し、生活支援のあり方を理解する。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1.社会福祉・社会保障制度の歴史的展開、各制度の概要が理解できるようになる。 2.社会福祉・社会保障を必要とする社会福祉援助技術のあり方、社会資源を活用した援助方法が理解できる。</p> <p>【実務経験】辰巳裕子:短大にて本科目に関する研究活動、教授活動を行っている。 事例等を活用しながら学生の理解を促進できるよう授業を行う。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p> | | | |
| [授業の内容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| 1 | 生活と福祉 | 1)なぜ福祉を学ぶのか 2)生活基盤ライフスタイル 3)人間の集団としての働き | ・社会福祉の特質 ・保健・医療・福祉の連携の必要性 |
| 2 | 〃 | 演習 | ・コミュニケーションのとり方・記録のとり方 |
| 3 | 社会保障の概念・歴史・制度体制 | 1)社会保障概念の形成 2)日本の社会保障の歴史的発展 3)社会保障の定義と範囲・分類 4)社会保障の目的 | ・価値観の多様性を理解する・社会保障の歴史的展開・社会保障の目的と種類 ・ライフサイクルと社会保障との関係 |
| 4 | 〃 | 5)社会保障の方法と財政 演習 | ・事例問題(児童・母子及び寡婦・生活 |
| 5 | わが国の社会保険制度 | 1)社会保険の役割と制度の分類 2)医療保険制度 | ・社会保険制度の意義と種類 ・社会保険各制度の目的 |
| 6 | 〃 | 3)老人保健制度と公費負担医療制度 4)保健医療制度・医療提供体制 5)国民医療費と医療制度改革の課題 6)介護保険制度・年金保険制度 7)労働保険制度 | ・給付内容等の概要理解 |
| 7 | 〃 | 演習 | ・事例問題(障害者・高齢者) |
| 8 | 社会福祉の歴史と | 1)慈善事業から福祉国家まで | ・社会福祉の歴史 |
| 9 | 援助技術 | 2)わが国の社会福祉の歴史 3)社会福祉援助技術 | ・社会福祉援助技術(直接援助技術、 間接援助技術、関連援助技術) |
| 10 | 〃 | 演習 | |
| 11 | 社会福祉の諸制度と施策 | 1)生活保護と施策 2)児童福祉と施策 3)身体障害児の福祉施策 | ・生活保護法・児童福祉法・身体障害者福祉法・知的障害者福祉法・精神障害者福祉法・老人福祉法・児童虐待防止法・高齢者虐待防止法・配偶者からの暴力及び被害者の保護に関する法律(DV防止法) |
| 12 | 〃 | 4)障害者の福祉施策・知的障害者(児)の福祉施策 5)高齢者の福祉施策 | |
| 13 | 社会福祉行政のしくみ | 1)社会福祉法 2)社会福祉及び介護福祉士法 | ・社会福祉実施体制・福祉専門職 |
| 14 | 社会保障・社会福祉改革の動向 | 1)少子高齢社会 2)社会福祉基礎構造改革 | ・地域福祉 ・少子高齢化と社会保障改革 |
| 15 | まとめ | | ・福祉改革と社会福祉基礎構造改革 |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・島田美喜編:ナーシング・グラフィカ健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障 メディカ出版 | | 1)最終試験評価:100% | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科 / 学年 | 年度 | 授業形態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--------------------------------|--|--|---|-----|-----|---------|---|-----------|---------------------------------|--|---|------------------|---|-----------|---|------------------|---|----------------------------|---|--------------|---------------------------|--------------------------------------|---|-------------------|---|--------------|---|----------------------------|----|-----------------------------|----|-------------|--|----|-------------|----|--------------------------------|----|-----------------|-------------------------|----|-----------------|--|--|---------------|--|
| 臨床援助技術論Ⅱ (検査・治療) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15回 | 1単位 (30時間) | 必須 | 程内 ゆみ子(実務経験有) 山下 美紀(実務経験有) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>検査・治療を受ける対象のニーズに応じた看護援助技術の基本の理解を目的とする。演習を取り入れ対象の安全・安楽を考慮した各看護技術の習得をねらいとする。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <p>1. 検査の内容を理解し、検査を受ける対象に応じた援助方法を専門用語を用いて説明できる。</p> <p>2. 治療・処置を受ける対象に応じた援助方法を専門用語を用いて説明できる。</p> <p>【実務経験】程内ゆみ子・山下美紀:看護師として5年以上の実務経験。 臨床での経験を教材化し、学生が基本的な知識・技術の習得を図れるよう授業を行う。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習、次回の授業内容をテキストにて予習して授業に臨む</p> <p>[授業の内容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 20%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 30%;">学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="5">検査に伴う看護技術</td> <td>1) 検査の種類と検査に伴う看護 【検査:榊原】</td> <td rowspan="5"> ・検査場面における看護師の役割と介助のポイントがわかる ・各検査の目的・留意点 </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2) 検体検査 ・血液検査</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>・尿、便、喀痰検査</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>3) 生体検査 ・X線検査</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>・CT検査、MRI検査 4) 生体モニタリング</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td rowspan="5">治療・処置に伴う看護技術</td> <td>1) 酸素療法 【(1)2):榊原】</td> <td rowspan="5"> ・酸素療法の目的、種類、方法・注意事項 ・吸引の目的、方法・留意点 </td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>2) 吸引 演習1 酸素療法</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>演習2 口腔・鼻腔内吸引</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>3) 創傷の観察 【(3)~5):林】</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>4) 褥瘡の観察、褥瘡の予防 5) 包帯法・電法</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>演習1 包帯法・三角巾</td> <td rowspan="3"> ・皮膚の構造機能、創傷の治癒過程 ・包帯法の目的、種類、方法・注意事項 </td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>演習2 冷電法・温電法</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>6) 一次的導尿・持続的導尿 【(6):高橋】</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>演習5 一時的導尿・持続的導尿</td> <td rowspan="2"> ・一次的導尿・持続的導尿の目的、方法・留意事項 </td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>演習5 一時的導尿・持続的導尿</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>上記授業終了後単位認定試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント | 1 | 検査に伴う看護技術 | 1) 検査の種類と検査に伴う看護 【検査:榊原】 | ・検査場面における看護師の役割と介助のポイントがわかる ・各検査の目的・留意点 | 2 | 2) 検体検査 ・血液検査 | 3 | ・尿、便、喀痰検査 | 4 | 3) 生体検査 ・X線検査 | 5 | ・CT検査、MRI検査 4) 生体モニタリング | 6 | 治療・処置に伴う看護技術 | 1) 酸素療法 【(1)2):榊原】 | ・酸素療法の目的、種類、方法・注意事項 ・吸引の目的、方法・留意点 | 7 | 2) 吸引 演習1 酸素療法 | 8 | 演習2 口腔・鼻腔内吸引 | 9 | 3) 創傷の観察 【(3)~5):林】 | 10 | 4) 褥瘡の観察、褥瘡の予防 5) 包帯法・電法 | 11 | 演習1 包帯法・三角巾 | ・皮膚の構造機能、創傷の治癒過程 ・包帯法の目的、種類、方法・注意事項 | 12 | 演習2 冷電法・温電法 | 13 | 6) 一次的導尿・持続的導尿 【(6):高橋】 | 14 | 演習5 一時的導尿・持続的導尿 | ・一次的導尿・持続的導尿の目的、方法・留意事項 | 15 | 演習5 一時的導尿・持続的導尿 | | | 上記授業終了後単位認定試験 | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 検査に伴う看護技術 | 1) 検査の種類と検査に伴う看護 【検査:榊原】 | ・検査場面における看護師の役割と介助のポイントがわかる ・各検査の目的・留意点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | 2) 検体検査 ・血液検査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | | ・尿、便、喀痰検査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | 3) 生体検査 ・X線検査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | ・CT検査、MRI検査 4) 生体モニタリング | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 治療・処置に伴う看護技術 | 1) 酸素療法 【(1)2):榊原】 | ・酸素療法の目的、種類、方法・注意事項 ・吸引の目的、方法・留意点 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | 2) 吸引 演習1 酸素療法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | 演習2 口腔・鼻腔内吸引 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | 3) 創傷の観察 【(3)~5):林】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | 4) 褥瘡の観察、褥瘡の予防 5) 包帯法・電法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 演習1 包帯法・三角巾 | ・皮膚の構造機能、創傷の治癒過程 ・包帯法の目的、種類、方法・注意事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 演習2 冷電法・温電法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 6) 一次的導尿・持続的導尿 【(6):高橋】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 演習5 一時的導尿・持続的導尿 | ・一次的導尿・持続的導尿の目的、方法・留意事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 演習5 一時的導尿・持続的導尿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 上記授業終了後単位認定試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・志自岐康子他 編:ナースング・グラフィカ 基礎看護学④ 基礎看護技術 メディカ出版 ・竹尾恵子:看護技術プラクティス 改訂3版、学研 | | 最終試験評価:100% 授業参加状況・学習態度を考慮する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科/学年 | 年度 | 授業形態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--------------------------------|--|---|-----|-----|-----|---------|---|--------|-------------|-----------|---|------------|---|---------------------|-----------------|--|---|---------------------|---|--------------------|---|--------------------------------|------------------|---|---|-------------------------|---|---------------------------|---|-------------------------|----|---------------------|----|-----------------------|----|---------------|----|------|--------|---------------------------------|----|---------------------|--|--|----|--------|----|--------|---------------|--|----|-----|----|----|--------------|--|
| 臨床援助技術論Ⅳ (看護過程) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義 演習 実習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 23回 | 2単位 (46 時間) | 必須 | 奈良育代/吉田展子 他(実務経験有) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>本授業では看護過程の役割・意義および5つの構成要素について学び、看護の視点を明確にしていく。また、アセスメントの枠組みとしてゴードンの機能的健康パターンを用い、紙上事例を展開することで看護過程の基本的な考え方を学ぶ。看護は実践の科学であり、アートである。エビデンスに基づいた思考過程と看護介入について考えられるよう、紙上事例を用いて看護過程を展開し学ぶ。</p> <p>紙上事例演習を行うことで、思考の視点や思考の順序性および法則性を学ぶことができることをねらいとする。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また、看護過程を用いることの意義を説明できる。 2. 看護過程の各段階について基本的な考え方を説明できる。 3. 紙上事例を用いて看護過程展開の実際を学ぶことができる。 <p>【実務経験】奈良育代・吉田展子:看護師として5年以上の実務経験。 学生が既習の知識を想起または調べ学習し、思考の技術の習得が図れるよう授業を行う。</p> <p>【準備学習】 前回の授業の復習、次回の授業までの課題に取り組み授業に臨む</p> <p style="text-align: center;">[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 25%;">単 元</th> <th style="width: 45%;">内 容</th> <th style="width: 25%;">学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="2">看護過程とは</td> <td>1)看護過程の構成要素</td> <td rowspan="2">・看護過程の5要素</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2)構成要素の関係性</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td rowspan="3">看護過程展開の 基盤となる考え方</td> <td>3)看護過程を用いることの利点</td> <td rowspan="3">・問題解決型思考とは ・クリティカルシンキングとは ・アセスメントの枠組みと看護理論 ・健康的機能パターンによる情報収集 ・アセスメント過程</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>1)看護過程と問題解決型思考(POS)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2)看護過程とクリティカルシンキング</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td rowspan="7">ゴードンの機能的健康 パターンに基づく 看護過程</td> <td>3)看護の視点と看護アセスメント</td> <td rowspan="7">・因果思考(原因結果) ・問題の検証 ・看護診断と看護問題、看護診断の種類 ・看護診断の記述(PRS方式)、問題の優先順位 ・RUMBAの法則、目標と診断指標の関係 ・計画と関連因子・危険因子の関係、O・T・Eプラン ・5W1H、安全・安楽・自立の視点 ・看護計画の実施、評価、修正の要点 ・看護記録の目的と意義、構成要素がわかる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1)アセスメント過程①:情報の整理・解釈・総合</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>2)アセスメント過程②:関連図をもちいた問題の統合</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>3)アセスメント過程③:情報の分析・統合・照合</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>4)問題の明確化(看護診断と看護問題)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>5)看護計画(看護目標(成果)・計画立案)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>6)計画の実施・評価・修正</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>看護記録</td> <td>1)看護記録</td> <td>・紙上事例を用いてグループで討議することで看護過程の実際を学ぶ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td rowspan="2">紙上事例を用いた 看護過程の実際</td> <td>演習:個人ワークならびにグループワークにて紙上事例を用いて看護過程を展開する</td> <td rowspan="2">紙上事例のアセスメント・問題点の明確化・看護計画立案について学びを共有するとともに疑問を解決する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>グループ発表</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td rowspan="2">グループ発表</td> <td rowspan="2">グループ発表および意見交換</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>試験</td> <td>上記終了後に科目終了試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント | 1 | 看護過程とは | 1)看護過程の構成要素 | ・看護過程の5要素 | 2 | 2)構成要素の関係性 | 3 | 看護過程展開の 基盤となる考え方 | 3)看護過程を用いることの利点 | ・問題解決型思考とは ・クリティカルシンキングとは ・アセスメントの枠組みと看護理論 ・健康的機能パターンによる情報収集 ・アセスメント過程 | 4 | 1)看護過程と問題解決型思考(POS) | 5 | 2)看護過程とクリティカルシンキング | 6 | ゴードンの機能的健康 パターンに基づく 看護過程 | 3)看護の視点と看護アセスメント | ・因果思考(原因結果) ・問題の検証 ・看護診断と看護問題、看護診断の種類 ・看護診断の記述(PRS方式)、問題の優先順位 ・RUMBAの法則、目標と診断指標の関係 ・計画と関連因子・危険因子の関係、O・T・Eプラン ・5W1H、安全・安楽・自立の視点 ・看護計画の実施、評価、修正の要点 ・看護記録の目的と意義、構成要素がわかる | 7 | 1)アセスメント過程①:情報の整理・解釈・総合 | 8 | 2)アセスメント過程②:関連図をもちいた問題の統合 | 9 | 3)アセスメント過程③:情報の分析・統合・照合 | 10 | 4)問題の明確化(看護診断と看護問題) | 11 | 5)看護計画(看護目標(成果)・計画立案) | 12 | 6)計画の実施・評価・修正 | 13 | 看護記録 | 1)看護記録 | ・紙上事例を用いてグループで討議することで看護過程の実際を学ぶ | 14 | 紙上事例を用いた 看護過程の実際 | 演習:個人ワークならびにグループワークにて紙上事例を用いて看護過程を展開する | 紙上事例のアセスメント・問題点の明確化・看護計画立案について学びを共有するとともに疑問を解決する | 15 | グループ発表 | 16 | グループ発表 | グループ発表および意見交換 | | 17 | まとめ | 18 | 試験 | 上記終了後に科目終了試験 | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 看護過程とは | 1)看護過程の構成要素 | ・看護過程の5要素 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | 2)構成要素の関係性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 看護過程展開の 基盤となる考え方 | 3)看護過程を用いることの利点 | ・問題解決型思考とは ・クリティカルシンキングとは ・アセスメントの枠組みと看護理論 ・健康的機能パターンによる情報収集 ・アセスメント過程 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | | 1)看護過程と問題解決型思考(POS) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | 2)看護過程とクリティカルシンキング | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | ゴードンの機能的健康 パターンに基づく 看護過程 | 3)看護の視点と看護アセスメント | ・因果思考(原因結果) ・問題の検証 ・看護診断と看護問題、看護診断の種類 ・看護診断の記述(PRS方式)、問題の優先順位 ・RUMBAの法則、目標と診断指標の関係 ・計画と関連因子・危険因子の関係、O・T・Eプラン ・5W1H、安全・安楽・自立の視点 ・看護計画の実施、評価、修正の要点 ・看護記録の目的と意義、構成要素がわかる | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | 1)アセスメント過程①:情報の整理・解釈・総合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | 2)アセスメント過程②:関連図をもちいた問題の統合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | 3)アセスメント過程③:情報の分析・統合・照合 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | 4)問題の明確化(看護診断と看護問題) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | 5)看護計画(看護目標(成果)・計画立案) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | 6)計画の実施・評価・修正 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 看護記録 | 1)看護記録 | ・紙上事例を用いてグループで討議することで看護過程の実際を学ぶ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | 紙上事例を用いた 看護過程の実際 | 演習:個人ワークならびにグループワークにて紙上事例を用いて看護過程を展開する | 紙上事例のアセスメント・問題点の明確化・看護計画立案について学びを共有するとともに疑問を解決する | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | | グループ発表 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 16 | グループ発表 | グループ発表および意見交換 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 17 | | | | まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | 試験 | 上記終了後に科目終了試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学① 看護学概論, メディカ出版 ・松尾ミヨ子他:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント, メディカ出版 ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術, メディカ出版 ・日本看護診断学会監修訳:NANDA- I 看護診断 定義と分類、医学書院 ・江川隆子:ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断[第4版]ヌーヴェルヒロカワ | | <ol style="list-style-type: none"> 1)1～5の内容について講義終了後に試験(筆記試験):40% 2)6以降の内容について講義終了後に試験(筆記試験):60% <p>*本科目に合格した学生は、成人看護学Ⅰ実習に参加できる</p> <p>*主体的に授業・演習に参加して下さい</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科 目 名 | 学 科 / 学 年 | 年 度 / 時 期 | 授 業 形 態 |
|--|--------------------|--|---|
| リフレクション I (基礎) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授 業 の 回 数 (×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授 業 担 当 者 |
| 8回 | 1単位 (16 時間) | 必須 | 吉田 展子(実務経験有) 南原 由理子(実務経験有) |
| <p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い] リフレクション(Refrection)は、個々の経験を内省し自らの経験から学ぶことを言う。このような思考は、卒業後専門職業人としての成長に必須の思考過程である。 ここでは、実習での事例をリフレクションすることで看護思考過程の明確化、対象理解を深める。また自己の行った看護の意味づけし、現時点における看護に対する考え深める内容とする。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)] 1. 対象者に対し実施した援助の必要性・援助方法について振り返り、説明できる。 2. 援助方法における安全・安楽・自立・尊厳について説明できる。 3. 自己の看護観を言語化できる。</p> <p>[実務経験]吉田展子・南原由理子:看護師として5年以上の実務経験 学生の臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する</p> <p>[準備学習]□ リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的について再学習する。また成人 I 実習後のリフレクションについては、必要に応じて中範囲理論や先行研究を活用して意味づけができるよう学習する。</p> | | | |
| [授 業 の 内 容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学 習 の ポ イ ン ト |
| 1 | 授業ガイダンス | 本科目のねらい、学習方法の説明 1) 深めたい内容の明確化 | ・グループ内でディスカッションして学び共有する ・日常生活援助を通して自己の学びを振り返る ・グループ内でディスカッションして学び共有する ・看護観レポート作成 |
| 2 | 基礎看護学実習Ⅱ 振り返り演習 | 2) 演習 グループワーク・個人ワーク | |
| 3 | 〃 | 3) 基礎看護学実習Ⅱ振り返り発表会 「日常生活援助について」 | |
| 4 | 〃 | 〃 | |
| 5 | 成人看護学実習Ⅰ 振り返り演習 | 4) 深めたい内容の明確化 | |
| 6 | 〃 | 5) 演習 グループワーク・個人ワーク | |
| 7 | 〃 | 6) 成人看護学実習Ⅰ振り返り発表会 | |
| 8 | 〃 | 〃 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・志自岐康子他 編:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 基礎看護技術 メディカ出版 ・藤野彰子:看護技術ベーシックス.医学芸術社 ・松尾ミヨ子他 編:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学② ヘルスアセスメント メディカ出版 | | 1) 基礎看護学Ⅱ実習の振り返り発表会における取組、発表の評価50% 2) 成人看護学Ⅰ実習の振り返り発表会における取組、発表の評価50% 3) 基礎看護学Ⅱリフレクション評価と成人看護学Ⅰ実習リフレクション評価との合算にて100% | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| | | | |
|----------------------|--------------|-------|------------------|
| 科目名 | 学 科 / 学 年 | 年 度 | 授 業 形 態 |
| 成人看護方法論 I (呼吸・循環) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授 業 担 当 者 |
| 15回 | 1単位 (30 時間) | 必須 | 朝比奈まこと/ 実務経験有 |

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

成人期にある対象の身体で起きている現象を理解し、呼吸機能障害、循環機能障害の患者の看護援助の基本理解を目的とする。特に急性期の看護援助の考え方や方法、成人とその家族のQOLを高める看護のあり方を学ぶ

[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

- 1.呼吸機能障害、循環機能障害がある対象とその家族を総合的に理解し説明できる。
- 2.呼吸機能障害、循環機能障害がある対象の特性と問題、援助方法を説明できる。
- 3.保健医療福祉の総合的な視点で健康レベルに応じた援助方法を説明できる。

【実務経験】朝比奈まこと他:看護師として5年以上の実務経験。

豊富な臨床経験でのエピソードを活用し、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。

【準備学習】□

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授 業 の 内 容]

| 回 | 単 元 | 内 容 | 学 習 の ポ イ ン ト |
|----|-----------------|---|---|
| 1 | 循環器系に障害のある患者の看護 | 1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・生体維持機能障害 ・救命救急虚血性心疾患 ・胸痛・動悸・浮腫・呼吸困難 ・チアノーゼ・失神 ・心電図・心臓カテーテル検査 |
| 2 | 〃 | 2)主要症状に対する看護 | |
| 3 | 〃 | 3)検査、治療、処置をうける患者の看護 検査、治療、処置の目的と方法及び看護 | |
| 4 | 〃 | 4)疾患をもつ患者の看護 | |
| 5 | 〃 | ①急性期の患者の看護 | |
| 6 | 〃 | ②回復期の患者の看護 | |
| 7 | 呼吸機能に障害のある患者の看護 | 1)呼吸機能障害患者の看護に必要な知識と技術、身体的・精神的・社会的側面を理解する | <ul style="list-style-type: none"> ・虚血性心疾患・心不全 ・ペースメーカー・動脈瘤・周手術期 ・リハビリテーション ・社会復帰 ・継続看護 ・社会資源の活用 ・咳嗽・喀痰・血痰・喀血・胸痛 ・呼吸困難 ・内視鏡・生検 ・肺炎 ・慢性閉塞性肺疾患 (COPD) ・肺がん患者 ・気管切開・胸腔ドレナージ ・周手術期 |
| 8 | 〃 | 2)呼吸器症状と看護 | |
| 9 | 〃 | 3)検査を受ける患者の看護 | |
| 10 | 〃 | 4)治療・処置を受ける患者の看護 | |
| 11 | 〃 | | |
| 12 | 〃 | 5)疾患を持つ患者の看護 ①急性期の患者の看護 | |
| 13 | 〃 | ②回復期の患者の看護 | |
| 14 | 〃 | ③慢性期、終末期患者の看護 | |
| 15 | 〃 | | |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |

[使用テキスト]

・佐伯由香他 編:ナーシング・グラフィカ
呼吸機能障害/循環機能障害 メディカ出版
・林正 健二 編:ナーシング・グラフィカ
疾病と治療 メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)最終試験評価:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| | | | |
|-------------------------------|-------------------|-------------|---------------------|
| 科目名 成人看護方法論Ⅱ (アレルギー・血液) | 学科/学年 看護学科/2年次 | 年度 令和3年度 | 授業形態 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30 時間) | 必須 | 橋本 照美(非常勤) 実務経験有 |

[授業の目的・ねらい]

近年医療の発展や薬物の開発により疾患を持つ人々とその家族を対象とした健康支援は病院内だけではなく外来や在宅に比重が移りつつあり、対象の健康への価値観・生き方は多様化してきている。疾患を持つ人々やその家族に活用される概念・諸理論、療養上の心理や行動特性とQOLについて理解を深め、療養生活上の対処とセルフケア能力を高める看護のあり方について学ぶ。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

1. 対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。
2. 疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論を説明することができる。
3. 対象とその家族が病気や障害と共に生きていくために効果的な援助方法を説明できる。

【実務経験】橋本照美:看護師として5年以上の実務経験。

臨床での看護実践経験、看護学校での教授活動経験をいかして、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。

【準備学習】□

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授 業 の 内 容]

| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント | |
|----|-----------------------|--------------------------------|--|--|
| 1 | アレルギー、膠原病、感染症のある患者の看護 | 1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的特徴 | | |
| 2 | 〃 | 2)主要症状に対する看護 | | |
| 3 | 〃 | 3)疾患を持つ患者の看護 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様なアレルギー症状 ・悪化予防への指導 ・日常生活の指導 ・ストレスや生活環境因子 ★理解度確認小テスト | |
| 4 | 〃 | ①急性期の患者の看護 | | |
| 5 | 〃 | ②回復期の患者の看護 | | |
| 6 | 〃 | ③慢性期の患者の看護 | | |
| 7 | 〃 | ④終末期の患者の看護 | | |
| 8 | 血液・造血器系に障害のある患者の看護 | 1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的特徴 | | <ul style="list-style-type: none"> ・易感染状態・・・感染の予防と早期対処 ・ボデーイメージの変化 ・全身の苦痛の緩和 ・患者と家族に対する心理的支援 ・輸血療法 ・化学療法時の看護・・・苦痛や副作用の予防 ★理解度確認小テスト |
| 9 | 〃 | 2)主要症状に対する看護 | | |
| 10 | 〃 | | | |
| 11 | 〃 | 3)疾患を持つ患者の看護 | | |
| 12 | 〃 | ①急性期の患者の看護 | | |
| 13 | 〃 | ②回復期の患者の看護 | | |
| 14 | 〃 | ③慢性期の患者の看護 | | |
| 15 | 〃 | ④終末期の患者の看護 | | |
| 試験 | | 上記終了後、期末試験 | | |

[使用テキスト]

- ・吉田澄恵他 編:ナースング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 メディカ出版
- ・中島恵美子他 編:ナースング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版
- ・中島恵美子他 編:ナースング・グラフィカ 成人看護学⑧ 緩和ケア メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価(記述試験):100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学 科 / 学 年 | 年 度 / 時 期 | 授 業 形 態 |
|---|------------------|---|--|
| 成人看護方法論Ⅲ (脳・代謝) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 |
| | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授 業 担 当 者 |
| 15回 | 1 単 位 (30 時 間) | 必須 | 橋本 照美 他(非常勤) 実務経験有 |
| <p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>在宅医療の推進によって、疾患をもつ人々とその家族を対象とした健康支援は外来や在宅に比重が移りつつあり、対象の健康への価値観・生き方は多様化してきている。疾患をもつ人々やその家族に活用される概念・諸理論、療養上の心理や行動特性とQOLについて理解を深め、療養生活上の対処とセルフケア能力を高める継続看護のあり方を学ぶ。</p> <p>[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1.対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。 2.疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論が説明できる。 3.対象とその家族が病気や障害とともに生きていくために、効果的な援助方法が説明できる。</p> <p>【実務経験】橋本照美:看護師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践経験、看護学校での教授活動経験をいかして、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。</p> <p>【準備学習】□ 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p> | | | |
| 1 2 3 4 5 6 | 脳神経に障害のある患者の看護 | 1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的特徴 2)主要症状に対する看護 3)疾患をもつ患者の看護 ①急性期の患者の看護 ②回復期の患者の看護 ③慢性期・終末期の患者の看護 4)検査、治療、処置をうける患者の看護 検査、治療、処置の目的と方法及び看護 | <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命 ・意識障害、運動麻痺 ・ボデーイメージの変化 ・排泄障害 ・高次機能障害 ・リハビリテーション、社会復帰 ・機能障害と社会への適応困難 ・継続看護、社会資源の活用 ・薬物療法、輸液療法 |
| 7 8 9 10 11 | 内分泌系に障害のある患者の看護 | 1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的特徴 2)主要症状に対する看護 3)疾患をもつ患者の看護 4)検査、治療、処置をうける患者の看護 検査、治療、処置の目的と方法及び看護 | 内分泌機能の観察とアセスメント ・身体、精神、血液所見、ホルモン定量 代謝率の正常性 ・日常生活への影響 甲状腺切除時の生活指導 脳下垂体切除術時の生活指導 ホルモン補充療法・抗ホルモン療法の生活指導 |
| 12 13 | 健康の危機的状態にある患者の看護 | 1)救急看護認定看護師による講義 ①生命の危機的状態に状態にある患者と家族への援助 | 救急看護認定看護師の役割・活動 生命の危機的状態と看護 救急・急性期看護、家族支援 |
| 14 15 | 糖尿病に罹患している患者の看護 | 1)糖尿病認定看護師による講義 ①糖尿病に罹患している患者と家族への援助 | 糖尿病認定看護師の役割・活動 糖尿病患者の理解 健康管理、生活管理 家族への支援 |
| 試験 | | 上記終了後 期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・田村 綾子 編:ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護④ 疾病と治療 メディカ出版 ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 メディカ出版 ・中島恵美子他 編:ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 [参考図書] ・林正健二 編:ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 | | 1)最終試験評価:100% | |

授 業 進 度 計 画 (シラバス)

| | | | |
|------------------------|-----------|-------|---------------------|
| 科目名 | 学科/学年 | 年度 | 授業形態 |
| 老年看護方法論Ⅰ (運動・腎・感覚器) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位(30時間) | 必須 | 桑原 真弓(非常勤) 実務経験有 |

[授業の目的・ねらい]

在宅医療の推進によって、疾患をもつ人々とその家族を対象とした健康支援は外来や在宅に比重が移りつつあり、対象の健康への価値観・生き方は多様化してきている。疾患をもつ人々やその家族に活用される概念・諸理論、療養上の心理や行動特性とQOLについて理解を深め、療養生活上の対処とセルフケア能力を高められるような継続看護を学ぶ。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

- 1.対象とその家族のライフスタイルをふまえ、セルフケア能力を高める援助方法が説明できる。
- 2.疾患を持った対象の看護実践に必要な知識と看護方法論が説明できる。
- 3.対象とその家族が病気や障害とともに生きていくために、効果的な援助方法が説明できる。

【実務経験】桑原真弓:看護師として5年以上の実務経験。

臨床での看護実践経験や老年看護学概論での知識を活用し、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。

【準備学習】□

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授業の内容]

| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
|----|-------------------|--|--|
| 1 | 感覚器系に障害がある患者の看護 | 1)看護に必要な知識と技術 皮膚障害時の看護 疾患の経過と看護 視力障害時の看護 | 観察とアセスメント ・視力、視野、眼球運動の検査法 ・聴力検査法 |
| 2 | 〃 | 2)疾患の経過と看護 歯・口腔 疾患の経過と看護 | ・平衡感覚検査法 ・触覚、味覚、嗅覚の検査法 |
| 3 | 〃 | 聴力障害時の看護 疾患の経過と看護 | ・各感覚器機能障害の原因と程度 ・心身・日常生活への援助 |
| 4 | 運動器系に障害がある患者の看護 | 1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解 | 観察とアセスメント |
| 5 | 〃 | 2)主要症状に対する看護 | ・老年期の特徴 |
| 6 | 〃 | 3)疾患をもつ患者の看護 | |
| 7 | 〃 | | ・日常生活動作の観察 |
| 8 | 〃 | | ・心身・日常生活の影響 |
| 9 | 〃 | | ・ボディイメージ、社会への適応 ・障害の受容と生活改善の援助 |
| 10 | 腎・泌尿器系に障害がある患者の看護 | 1)看護に必要な知識と技術 身体的・心理的・社会的問題の特徴の理解 | 観察とアセスメント |
| 11 | 〃 | 2)主要症状に対する看護 | ・体液不均衡の程度と原因、腎不全の病期 |
| 12 | 〃 | | |
| 13 | 〃 | | ・尿・排泄障害の程度と原因 |
| 14 | 〃 | | ・心身・日常生活への影響とコントロール |
| 15 | 〃 | | |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |

[使用テキスト]

石川ふみよ他 編:ナーシング・グラフィカ
運動機能障害 メディカ出版
・田村綾子他 編:ナーシング・グラフィカ
脳・神経機能障害/感覚機能障害 メディカ出版
・林正健二他 編:ナーシング・グラフィカ
内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害 メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)科目終了時の最終試験評価(記述試験):100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| | | | |
|-------------------------|-------------------|----------------|------------------|
| 科目名 老年看護方法論Ⅱ (生活) | 学科/学年 看護学科/2年次 | 年度/時期 令和3年度 | 授業形態 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30時間) | 必須 | 吉田 展子 他(実務経験有) |

[授業の目的・ねらい]

本科目はさまざまな健康レベル、障害レベルにある老年期の個人と家族を対象としている。その問題は加齢による心身機能の変化のほか、疾病、治療、生活環境・習慣など多様な影響を受けるため幅広い。そこでこれらを十分に尊重し、「生活の質」を高め個別の可能性を最大に発揮できるような、老年期の看護援助のあり方を考える。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

1. 高齢者に生じやすい心身の健康問題を身体機能と生活機能の両面からとらえ、正確にヘルスアセスメントできる。
2. 高齢者に生じやすい心身の健康問題に対し、個人と家族に看護援助、予防、指導、教育する方法を説明できる。
3. 老年期特有の薬物作用や問題を理解し、安全に薬物療法できる援助方法を述べるができる。
4. 高齢者のエンパワーメントを促進する看護の方法を学ぶことができる。

【実務経験】吉田展子:看護師として5年以上の実務経験。

臨床での看護実践経験を活用し、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。

その他講師(非常勤):看護師として5年以上の実務経験を有し、担当分野の看護実践に精通している看護師ならびに認定看護師等。看護実践エピソードを教材として授業を行う。

【準備学習】

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授業の内容]

| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
|----|---------------------|--|--|
| 1 | 高齢者の主な疾患と生活支援のための援助 | 1) 高齢者に特徴的な疾患を持つ患者の看護(肺疾患) (看護過程展開) | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | " | 2) 慢性心不全のある高齢患者とその家族の看護 | ・左心不全・右心不全 急性憎悪、日常生活援助と健康管理 社会資源 |
| 8 | | | |
| 9 | " | 3) 認知症のある患者とその家族への看護 | ・認知症の病態・種類、認知機能の評価方法 ・認知症の症状理解と日常生活援助、 認知症患者の家族への支援、認知症予防と治療 |
| 10 | | | |
| 11 | " | | ・市や町での取り組み、社会資源 |
| 12 | " | 4) 難病患者とその家族への看護 | ・難病患者の理解と日常生活援助 心のケア、QOL、意思決定支援 ・難病患者の家族への支援と社会資源 |
| 13 | | | |
| 14 | " | 5) 人工呼吸器を装着している患者とその家族への看護 | ・人工呼吸器装着患者の理解とケア コミュニケーション、家族への支援 心のケアとQOL ・意思決定支援、緊急時の対応 |
| 15 | | | |

[使用テキスト]

・堀内ふき他 編:ナーシング・グラフィカ
老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版
・堀内ふき他 編:ナーシング・グラフィカ
老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版
・佐伯由香他 編:ナーシング・グラフィカ
呼吸機能障害/循環機能障害 メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1) 内容1)については科目終了時の最終試験の評価:100%
- 2) 内容2)～5)については課題レポートの提出、出席状況を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

2020.11.11(水)配布

| | | | |
|-------------------------|-------------------|----------------|------------------------|
| 科目名 老年看護方法論Ⅱ (生活) | 学科/学年 看護学科/2年次 | 年度/時期 令和3年度 | 授業形態 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30 時間) | 必須 | 吉田 展子/奈良 育代 (実務経験有) |

[授業の目的・ねらい]

本科目は老年期にあり回復過程にある対象、周手術期にある対象への看護について学修する。老年期にある対象に必要な看護の視点は、加齢による心身機能の変化のほか、疾病、治療、生活環境・習慣など多様な影響を受けるため、アセスメントの視点や看護上の問題は幅広い。対象の状態を科学的に判断し、生命を護り(異常の早期発見)、さらに可能性を發揮できるよう老年期の看護援助のあり方を考える。

[科目修了時の達成課題(行動目標)]

- 1.回復過程にある老年期の対象に必要な看護について説明できる。
- 2.老年期にある対象の加齢による心身機能の変化と全身麻酔が及ぼす影響を説明できる。
- 3.周手術期にある老年期の対象に必要な看護について説明できる。

【実務経験】吉田展子・奈良育代:看護師として5年以上の実務経験。

臨床での看護実践経験を活用し、学生が学びやすい工夫のもと授業を展開する。

【準備学習】□

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習を授業資料や関係するテキストを用いて行う。

[授業の内容]

| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
|---|---------------------------------------|--|--|
| 1 2 3 4 5 6 7 8 9 | 高齢者の主な疾患と生活支援のための援助 担当:奈良 | 1)老年期にある患者への看護の展開(脳梗塞)(看護過程展開) 脳梗塞患者への看護計画の立案 ・グループワーク ・発表・意見交換 | 臨床援助技術論Ⅳでの学習をふまえて看護計画を立案することで学ぶ 期待される成果と症状・徴候(診断指標)のつながり、ルンバの法則 看護計画と原因・誘因(関連因子・危険因子)のつながり、OP・TP・EP、6W1H |
| 10 11 12 13 14 15 | 老年期の特徴 周手術期にある高齢者への看護 担当:吉田 | 2)周手術期にある老年期の対象への看護 (1)老年期の変化 (2)麻酔による身体への影響 (3)周手術期にある高齢者への看護 | 加齢による心身の変化 麻酔が身体に与える影響 |

【特別講義等にて教授していく内容】

| | |
|---------------------------|--|
| 慢性心不全のある高齢患者とその家族の看護 | <ul style="list-style-type: none"> ・左心不全・右心不全 急性憎悪、日常生活援助と健康管理 社会資源 ・認知症の病態・種類、認知機能の評価方法 ・認知症の症状理解と日常生活援助、認知症患者の家族への支援、認知症予防と治療 ・市や町での取り組み、社会資源 ・難病患者の理解と日常生活援助 心のケア、QOL、意思決定支援 ・難病患者の家族への支援と社会資源 ・人工呼吸器装着患者の理解とケア コミュニケーション、家族への支援 心のケアとQOL ・意思決定支援、緊急時の対応 |
| 認知症のある患者とその家族への看護 | |
| 難病患者とその家族への看護 | |
| 5)人工呼吸器を装着している患者とその家族への看護 | |

[使用テキスト]

- ・堀内ふさ他 編:ナーシング・グラフィカ
- 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版
- ・堀内ふさ他 編:ナーシング・グラフィカ
- 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版
- ・佐伯由香他 編:ナーシング・グラフィカ
- 呼吸機能障害/循環機能障害 メディカ出版
- ・基礎看護技術、プラクティス、スタディガイド

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

科目終了時の最終試験の評価:100%
*出席状況、授業ならびにグループワーク参加状況を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| | | | |
|---------------------|--------------|-------|-----------------------|
| 科目名 | 学科/学年 | 年度 | 授業形態 |
| 小児看護方法論Ⅰ (発達段階別) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30 時間) | 必須 | 塩山 秀子(非常勤) (実務経験有) |

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

小児各期の成長発達における親や家族の重要性を理解し、生活行動の援助方法を学ぶ。健康障害による入院が小児とその家族に及ぼすストレスという視点で理解し、家族を含めた適切な援助方法および病棟管理のあり方を学ぶ。

[科 目 終 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

- 1.入院を小児とその家族に及ぼすストレスという視点で理解し、家族を含めた適切な援助を説明できる。
- 2.健康を障害されることが小児の心身の成長発達や家族に及ぼす影響を説明できる。
- 3.入院が小児の成長発達に及ぼす影響を踏まえて、発達段階別の看護のポイントを記述できる。
- 4.小児の特徴を踏まえて、小児看護に必要な技術を習得する。

【実務経験】塩山秀子:看護師として5年以上の実務経験。

臨床での看護実践経験を教材とし、学生が学びやすい工夫をする。

【準備学習】□

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授 業 の 内 容]

| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
|----|-------------------|-----------------------------------|----------------|
| 1 | 小児看護看護における倫理 | 小児看護と倫理的配慮 | |
| 2 | 子どもの成長・発達の原 | 1)成長・発達の一般的原則と影響する要因 | |
| 3 | ” | 2)乳児期の形態的成長と機能的発達 | |
| 4 | 小児の発達段階に応じた看護 | 1)乳児の生活と援助 | 乳幼児の生活と援助 |
| 5 | ” | 2)幼児の生活と援助 | |
| 6 | ” | 3)学童期の小児の生活と援助 | |
| 7 | ” | 4)思春期の小児の生活と援助 | 学童、思春期の特徴と援助 |
| 8 | 小児看護の技術 | 1)援助関係を形成する技術 援助関係、コミュニケーション | |
| 9 | ” | 2)安心安全な環境を調整する技術 発達段階に応じた環境づくり | |
| 10 | ” | 3)食事の援助技術 離乳食、乳幼児の食事の援助 | 動画:乳児の食事場面 |
| 11 | ” | 4)排泄の援助技術 おむつ交換、排泄行動自立への援助 | 動画:おむつ交換 |
| 12 | ” | 5)清潔・衣生活の援助技術 沐浴、衣服の交換 | 動画:清拭・衣服の交換 |
| 13 | 健康障害をもつ子ども・家族への看護 | 1)子どものストレス 子どものストレス対処支援 | |
| 14 | ” | 2)子どものプリパレーション 事例別プリパレーション | プリパレーションツールの作成 |
| 15 | ” | 3)プリパレーション発表 | |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |

[使用テキスト]

・中村綾美 編:ナーシング・グラフィカ
小児看護学①小児の発達と看護 メディカ出版
・中村綾美 編:ナーシング・グラフィカ
小児看護学②小児看護技術 メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

科目終了時の最終試験の評価:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| | | | |
|---------------------|--------------|-------|------------------------|
| 科目名 | 学科/学年 | 年度 | 授業形態 |
| 小児看護方法論Ⅱ (症状別看護) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30 時間) | 必須 | 徳竹 律子/榊原 智子 (実務経験有) |

[授業の目的・ねらい]

小児に特有な疾患の病態生理・症状・経過・検査・治療・予後を理解し、経過に応じた生活行動の援助や症状緩和をめざした適切な看護および継続看護のあり方を学ぶ。

[科目終了時の達成課題(行動目標)]

- 1.小児に多く見られる主な症状の特徴と観察の要点、基本的看護を説明できる。
- 2.小児に特有な疾患の病態生理、症状と治療について説明でき、適切な看護について記述できる。
- 3.疾病を持ちながら成長発達を続ける小児への支援と看護について、病院・外来・社会をとおした、継続看護を記述できる。

【実務経験】徳竹律子:看護師として5年以上の実務経験。

臨床での看護実践経験を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。

【準備学習】□

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授業の内容]

| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
|----|-------------------|---------------------------|---------------------------|
| 1 | 小児にみられる主な症状と看護 | 1)痛みのある児の看護 | 主な症状を表す疾患を事例に学習する |
| 2 | 〃 | 2)呼吸困難のある児の看護 | ・麻疹の症状と看護 |
| 3 | 〃 | 3)チアノーゼのある児の看護 | ・急性胃腸炎の症状と看護 |
| 4 | 〃 | 4)ショック状態にある児の看護 | ・肥厚性幽門狭窄症の症状と看護 |
| 5 | 〃 | 5)発熱のある児の看護 | ・気管支喘息の症状と看護 |
| 6 | 〃 | 6)嘔吐・下痢のある児の看護 | ・ファロー四徴症の症状と看護 |
| 7 | 〃 | 7)脱水症状のある児の看護 | ・ネフローゼ症候群の症状と看護 |
| 8 | 〃 | 8)浮腫のある児の看護 | ・熱性けいれんの看護 |
| 9 | 〃 | 9)けいれん・意識障害のある児の看護 | ・川崎病の看護、与薬の技術援助 |
| 10 | 〃 | 10)発疹のある児の看護 | |
| 6 | 健康障害の経過の特徴と看護 | 1)急性的経過をたどる健康問題・障害と看護 | ・フィンクの危機モデルの活用 |
| 7 | 〃 | 2)慢性的経過をたどる健康問題・障害と看護 | ・外来における家族と看護 |
| 8 | 〃 | 3)周手術期の健康障害の主な症状と看護 | ・状況的危機・発達の危機 |
| 9 | 〃 | 4)ターミナル期の健康障害の主な症状と看護 | ・ノーマライゼーションを支援する看護 |
| 10 | 健康障害を持つ小児の生活と看護 | 1)治療処置・検査を受ける小児と家族 | ・手術を受ける子どものプリパレーション |
| 11 | 〃 | 2)感染防止の必要がある小児と家族 | ・子どもを亡くした両親へのグリーフケア |
| 12 | 〃 | 3)活動制限を必要とする小児と家族 | ・用語の理解:プレパレーション、ディストラクション |
| 13 | 〃 | 4)病気とともに生活している小児と家族(在宅療養) | ・腰椎穿刺、骨髄穿刺、尿採取、便採取 |
| 14 | 〃 | 5)先天異常・障害のある小児と家族 | ★理解度確認小テスト |
| 15 | 小児と家族に起こりやすい状況と看護 | 1)被虐待が疑われる小児と家族 | ★理解度確認小テスト |
| | 試験 | 2)災害を受けた小児と家族 | |
| | | 上記終了後、期末試験 | |

[使用テキスト]

・奈良間美保他:系統看護学講座専門
小児看護学概論、小児臨床看護総論、医学書院
・中野綾美他:ナーシング・グラフィカ①小児の発達と看護、メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)科目終了時の最終試験の評価:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| | | | |
|-------------|------------|-------|---------------|
| 科目名 | 学科 / 学年 | 年度 | 授業形態 |
| 母性看護学概論 | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30時間) | 必須 | 高橋 美佐子(実務経験有) |

[授業の目的・ねらい]

本科目は母性看護学を学び始めるための出発点として、現代社会に生きる女性や家族がおかれている状況下でのセクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツの側面から女性のライフサイクル、母性の健康課題を概観し、看護者の役割について主体的に学ぶことを目的としている。また、授業方法として「グループ学習」、「グループ討議」も展開するので、事前学習をして興味・関心を持って主体的に学ぶことを期待する。

[授業修了時の達成課題(行動目標)]

1. 人間にとっての性・セクシュアリティの概念、および人権としてのリプロダクティブヘルスについて説明できる。
2. 母性・父性観の変遷から親役割について理解し、役割移行期における看護の必要性を説明できる。
3. わが国および海外の母性看護の歩みを理解し、時代に求められる母性看護のあり方を述べることができる。
4. 現代社会における女性を取り巻く環境と女性の健康とのかかわり、および対処方法を説明できる。
5. 女性のライフサイクル各期における身体的・心理的特徴、および起こりやすい健康障害を説明できる。

【実務経験】高橋美佐子:助産師として5年以上の実務経験。

臨床での看護実践を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。

【準備学習】□

授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。

[授業の内容]

| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
|----|------------------------|--|--|
| 1 | ガイダンス 母性看護の主要な概念 | 母性看護学の学習内容と進め方 母性とは 母子関係と家族発達 リプロダクティブヘルス/ライツ | 現代女性のライフサイクル |
| 2 | 母性看護における倫理・ | 母子保健統計 | 合計特殊出生率 |
| 3 | 法律施策 | 母性看護における法律 健やか親子21 | 母子保健法、労働基準法 戸籍法、母体保護法 |
| 4 | | ★知識確認テスト | |
| 5 | 性と生殖 | セクシュアリティ | |
| 6 | | 女性の生殖器 | |
| 7 | | 月経周期 | GnRH、LH、FSH エストロゲン、プロゲステロン HCG |
| 8 | 思春期・成熟期女性の | 思春期女性の特徴、健康と看護 | 月経困難症、マンスリービクス |
| 9 | 健康と看護 | 成熟期女性の特徴、健康と看護 | 子宮筋腫、子宮内膜症 |
| 10 | | ★知識確認テスト | |
| 11 | 妊孕性に関わる健康問題 と看護 | 性感染症 ドメスティック・バイオレンスと性暴力 | |
| 12 | 更年期・老年期女性の 健康と看護 | 更年期女性の特徴 健康問題と看護 | 更年期障害、 下部尿路機能障害 骨粗鬆症 脂質異常症 動脈硬化 更年期うつ |
| 13 | | 老年期女性の特徴 健康問題と看護 | 骨盤臓器脱 萎縮性膣炎 |
| 14 | 特殊なニーズをもつ 妊産婦と家族の支援 | | 人工妊娠中絶、未婚女性の妊娠 外国人妊産婦 |
| 15 | まとめ | | |

[使用テキスト]

・横尾京子他 編:ナーシング・グラフィカ
母性看護①母性看護実践の基本 メディカ出版

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)最終試験評価:100%

[参考図書]適宜提示する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学 科 / 学 年 | 年 度 | 授 業 形 態 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|-------------------------|---|--------------------------------|---|-----|-----|---------------|---|-------------------------|-------------------------------|-------------------|---|---|--------------------------------|--------------------------------|---|---|---------------------------------|--|---|---|------------|------|---|----------|----------------------|-------------------|---|---|-----------------------|------------------------|---|-----------|----------------------------|-------------------|---|---|-----------------|---------|---|---|--------------------------|--|----|---|--------------------|-----------|----|---------|-------------------------------|---------------------------|----|---|--------------|---------------------|----|------------|------------------------------|--|----|---|---|-------------|----|----------------|---|---------|--|----|------------|--|
| 母性看護方法論Ⅰ (妊娠・分娩) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15回 | 1単位 (30 時間) | 必須 | 高橋美佐子(非常勤) 実務経験有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>本科目ではマタニティサイクルにおけるケアとして、正常な経過をたどる妊・産・褥婦の心身の変化を理解し基礎的看護実践能力を習得する。授業方法として演習を取り入れるので、臨場感をもって真摯に学ぶことを期待する。なお健康障害を持つ妊・産・褥婦の看護および看護過程の展開については「母性看護方法論Ⅱ」で学ぶ。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期にある女性の心身の変化を人体の構造と機能の視点を加えて説明できる。 2. 妊娠期・分娩期にある女性をゴードン適応看護モデルにより1次アセスメントができる。 3. 妊娠期・分娩期にある女性のニーズにそった基本的看護援助技術を実施できる。 <p>【実務経験】高橋美佐子:助産師として5年以上の実務経験。 臨床での看護実践を教材とし学生が学びやすい工夫を行い、基礎的な知識の習得を図る。</p> <p>【準備学習】□ 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回</th> <th style="width: 25%;">単 元</th> <th style="width: 50%;">内 容</th> <th style="width: 20%;">学 習 の ポ イ ン ト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>母性の発揮を促す看護 妊娠期における看護</td> <td>1)遺伝相談,不妊治療 2)妊婦と胎児のアセスメント</td> <td>不妊の定義 レオポルド触診法</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>3)胎児発育の評価 4)妊婦計測 5)胎児心拍数</td> <td>ネーゲレの概算法 子宮底長,腹囲測定 胎児心拍図</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>6)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 7)妊婦健康診査</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>8)妊娠中の栄養管理</td> <td>体重増加</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>妊婦と家族の看護</td> <td>1)妊娠中の衣生活 2)妊婦の勤労</td> <td>妊娠高血圧症候群の予防 腹帯</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>3)入院のための準備 4)産痛緩和法</td> <td>バースプラン 弛緩法,呼吸法,補助動作</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>分娩期における看護</td> <td>1)分娩進行から入院まで 2)分娩第1期の心理</td> <td>フリードマン曲線 リード理論</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>3)基本的ニードのアセスメント</td> <td>LDRシステム</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>4)産婦と家族の看護 5)安全・安楽な分娩</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>6)出産体験が肯定的になるための看護</td> <td>出産体験の振り返り</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>分娩各期の看護</td> <td>1)自然かつ快適な分娩 2)基本的ニードに関する看護</td> <td>フリースタイル出産 水分、栄養、排泄、怒責感</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>3)分娩第1～4期の看護</td> <td>胎盤娩出,異常出血 母子相互作用</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>新生児期における看護</td> <td>1)新生児の健康状態のアセスメント 2)全身の観察</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td style="text-align: center;">"</td> <td>3)新生児期に実施される検査 4)ビタミンKの投与 5)医療事故・医療安全</td> <td>母乳栄養成功の10カ条</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>分娩経過のアセスメントと看護</td> <td>1)妊娠中期の健診とスクリーニング 2)分娩監視装置と胎児健康状態の評価 3)破水の診断 4)分娩の介助</td> <td style="text-align: right;">【DVD視聴】</td> </tr> <tr> <td></td> <td>試験</td> <td>上記終了後、期末試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | | | 回 | 単 元 | 内 容 | 学 習 の ポ イ ン ト | 1 | 母性の発揮を促す看護 妊娠期における看護 | 1)遺伝相談,不妊治療 2)妊婦と胎児のアセスメント | 不妊の定義 レオポルド触診法 | 2 | " | 3)胎児発育の評価 4)妊婦計測 5)胎児心拍数 | ネーゲレの概算法 子宮底長,腹囲測定 胎児心拍図 | 3 | " | 6)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 7)妊婦健康診査 | | 4 | " | 8)妊娠中の栄養管理 | 体重増加 | 5 | 妊婦と家族の看護 | 1)妊娠中の衣生活 2)妊婦の勤労 | 妊娠高血圧症候群の予防 腹帯 | 6 | " | 3)入院のための準備 4)産痛緩和法 | バースプラン 弛緩法,呼吸法,補助動作 | 7 | 分娩期における看護 | 1)分娩進行から入院まで 2)分娩第1期の心理 | フリードマン曲線 リード理論 | 8 | " | 3)基本的ニードのアセスメント | LDRシステム | 9 | " | 4)産婦と家族の看護 5)安全・安楽な分娩 | | 10 | " | 6)出産体験が肯定的になるための看護 | 出産体験の振り返り | 11 | 分娩各期の看護 | 1)自然かつ快適な分娩 2)基本的ニードに関する看護 | フリースタイル出産 水分、栄養、排泄、怒責感 | 12 | " | 3)分娩第1～4期の看護 | 胎盤娩出,異常出血 母子相互作用 | 13 | 新生児期における看護 | 1)新生児の健康状態のアセスメント 2)全身の観察 | | 14 | " | 3)新生児期に実施される検査 4)ビタミンKの投与 5)医療事故・医療安全 | 母乳栄養成功の10カ条 | 15 | 分娩経過のアセスメントと看護 | 1)妊娠中期の健診とスクリーニング 2)分娩監視装置と胎児健康状態の評価 3)破水の診断 4)分娩の介助 | 【DVD視聴】 | | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学 習 の ポ イ ン ト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 母性の発揮を促す看護 妊娠期における看護 | 1)遺伝相談,不妊治療 2)妊婦と胎児のアセスメント | 不妊の定義 レオポルド触診法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | " | 3)胎児発育の評価 4)妊婦計測 5)胎児心拍数 | ネーゲレの概算法 子宮底長,腹囲測定 胎児心拍図 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | " | 6)妊婦と胎児の健康状態のアセスメント 7)妊婦健康診査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | " | 8)妊娠中の栄養管理 | 体重増加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | 妊婦と家族の看護 | 1)妊娠中の衣生活 2)妊婦の勤労 | 妊娠高血圧症候群の予防 腹帯 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | " | 3)入院のための準備 4)産痛緩和法 | バースプラン 弛緩法,呼吸法,補助動作 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 分娩期における看護 | 1)分娩進行から入院まで 2)分娩第1期の心理 | フリードマン曲線 リード理論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | " | 3)基本的ニードのアセスメント | LDRシステム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | " | 4)産婦と家族の看護 5)安全・安楽な分娩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | " | 6)出産体験が肯定的になるための看護 | 出産体験の振り返り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 分娩各期の看護 | 1)自然かつ快適な分娩 2)基本的ニードに関する看護 | フリースタイル出産 水分、栄養、排泄、怒責感 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | " | 3)分娩第1～4期の看護 | 胎盤娩出,異常出血 母子相互作用 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 新生児期における看護 | 1)新生児の健康状態のアセスメント 2)全身の観察 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14 | " | 3)新生児期に実施される検査 4)ビタミンKの投与 5)医療事故・医療安全 | 母乳栄養成功の10カ条 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15 | 分娩経過のアセスメントと看護 | 1)妊娠中期の健診とスクリーニング 2)分娩監視装置と胎児健康状態の評価 3)破水の診断 4)分娩の介助 | 【DVD視聴】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・横尾 京子他:ナーシング・グラフィカ 母性看護学① 母性看護実践の基本 母性看護学 ② 母性看護技術 メディカ出版。 | | 1)最終試験評価:100% 2)授業参加状況(遅刻・早退を含む) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科/学年 | 年度 | 授業形態 |
|---|------------------------|--|--|
| 精神看護学概論 | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位(30時間) | 必須 | 藤野裕介(実務経験有) (非常勤) |
| <p>[授業の目的・ねらい] 心の構造や働き、心の発達・健康及び心に影響をもたらす環境的要因について学習するとともに、看護師自身の自己活用が効果的に行われるために体験学習を通して自分自身への気づきを得る。また、精神看護の意義、目的、役割機能について精神に病を持つ人やその家族のみならず、全てのライフサイクルにある人を対象として理解し援助するために必要な基礎的知識を学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1.全てのライフサイクルにある対象の健康問題をメンタルヘルスの視点で考えることができる。 2.対象の発達課題及び危機とその援助について理解できる。</p> <p>[実務経験]藤野裕介:看護師として5年以上の実務経験。 病院での看護実践経験を教材として、学生が主体的に学修に取り組めるよう授業を工夫する。</p> <p>[準備学習]□ 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p> | | | |
| [授業の内容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| 1 | 精神看護学で伝えたいこと1 | 1)精神看護学とは 2)自己を知る | <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の精神障害に対するありのままの気持ちを知る ・日本の精神科医療の歴史と変遷から精神科医療、地域精神保健福祉活動の特徴と課題を学ぶ ・自我の構造 ・心の防衛機制 ・人間の成長と発達 ・発達理論(フロイト、エリクソン他) ・ストレスとストレス反応 ・ストレス対処行動(コーピング) ・成長発達過程における危機、状況の変化における危機を学ぶ ・サポートシステムなどの考え方に基いて、危機の状況を把握する方法について理解を深める ・ライフサイクルと精神の健康についての危機とその援助を学ぶ ・家族のメンタルヘルス ・精神障害者を抱える家族への援助 ・看護師のストレス ・ストレスマネジメント |
| 2 | 精神看護学で伝えたいこと2 | 1)精神保健医療福祉の歴史と看護 | |
| 3 | 精神の健康と障害 | 1)地域精神保健福祉活動 | |
| 4 | 人間の心のしくみと人格の発達 1 | 1)心の発達とは | |
| 5 | 人間の心のしくみと人格の発達 2 | 1)発達理論 | |
| 6 | ストレスと対処行動 | | |
| 7 | 危機状況と心の働き | 1)危機とは 2)危機モデル・危機介入 | |
| 8 | ライフサイクルと精神の健康(危機と危機介入) | 1)乳児期 | |
| 9 | 〃 | 2)幼児期 | |
| 10 | 〃 | 3)児童期 | |
| 11 | 〃 | 4)思春期 | |
| 12 | 〃 | 5)成人期 | |
| 13 | 〃 | 6)老年期 | |
| 14 | 家族を支援する | | |
| 15 | 看護師の精神の健康 | 1)リエゾン精神看護、コンサルテーション | |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・出口 禎子 編:ナーシンググラフィカ 精神看護学 ①情緒発達と看護の基本/精神看護学②精神障害と看護の基本 | | 1)最終試験評価:80% 2)授業課題評価:10% 3)授業参加状況:10% | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科 目 名 | 学 科 / 学 年 | 年 度 / 時 期 | 授 業 形 態 |
|--|------------------|---|---|
| 在宅看護論概説 | 看護学科2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授 業 の 回 数 (×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授 業 担 当 者 |
| 8回 | 1 単 位 (16時間) | 必須 | 程内 ゆみ子/松原 文子(非常勤) (実務経験有) |
| <p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>在宅看護が必要とされる社会的な背景をふまえ、在宅看護の概念と対象、活動の場、活動方法の特徴について学ぶ。</p> <p>[科 目 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <p>1.在宅ケアと在宅看護の関連と看護職の位置づけについて説明できる。 2.在宅看護の歴史、社会的背景から在宅看護の特性と看護者の役割について説明できる。 3.在宅ケア・在宅看護の制度とシステムから関連職種の役割と連携の必要性を説明できる。</p> <p>【実務経験】程内ゆみ子:看護師として5年以上の実務経験。 松原文子:保健師として5年以上の実務経験。 保健師として地域での看護実践を教材とし、学生が学びやすい工夫を行い授業を行う。 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p> | | | |
| [授 業 の 内 容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学 習 の ポ イ ン ト |
| 1 | 在宅看護を知ろう I | 1. あなたは、どんな町に住みたいですか？ 2. 在宅看護とは DVD(命と生活を看護する訪問看護サービス35分) 在宅看護で心がけることは何ですか？ | ・地域包括ケアシステム |
| 2 | 在宅看護を知ろう II | 3. あらゆる面からQOLを考える 事例1:B氏 70歳男性 DM 一人暮らし 4. 在宅看護に求められていること 事例2:Aちゃん5歳 女兒 気管切開 | ・QOL |
| 3 | 在宅看護の特性 I | 1. 在宅看護の歴史、位置づけ 2. 在宅看護論を構成する4要素 3. 家族コミュニティ | ・在宅看護の変遷 ・在宅看護論の4要素 対象・在宅看護の方法(理論・方法・技術) |
| 4 | 在宅看護の特性 II | 2. 在宅看護の特性 1)在宅療養の利点と限界 2)在宅看護の利点と限界 3)在宅看護の機能と役割 | 看護過程の特徴・在宅看護の活動の場 |
| 5 | 在宅看護の対象 | 1. 在宅看護の対象 | ・在宅看護に対するニーズ ・在宅看護の役割 ・切れ目のない医療・看護 |
| 6 | 〃 | 1)在宅療養者と家族・地域との関わり 2)在宅療養者の特徴 3)家族・コミュニティ | ・すべての年齢層、あらゆる健康レベル ・病院・施設と自宅との違い ・生活者の視点 ・家族を単位とした看護 |
| 7 | 在宅療養を支える 看護活動 | 1. 退院支援・退院調整 | ・介護保険法、医療保険 障害者総合支援法、地域包括支援センター |
| 8 | 〃 | 1. 訪問看護制度と現状 【8回 松原文子】 2. 訪問看護ステーションの管理運営 3. 在宅ケアシステムとケアマネジメント 4. 社会資源における看護職の役割 | ・訪問看護のしくみ・機能 ・社会資源と関連職種との連携 |
| 試験 | | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・櫻井尚子他:ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア, メディカ出版 ・厚生統計協会編、国民衛生の動向 ・秋山正子他:在宅看護論, 医学書院 | | 1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)授業参加状況(出席状況を含む)を考慮する | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科/学年 | 年度 | 授業形態 |
|--|--------------------|--|---|
| 在宅看護方法論Ⅰ (家族援助) | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位(30時間) | 必須 | 佐藤 洋子 / 林 晶子 (実務経験有) |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>在宅療養者のみでなく療養者と家族を1つの単位として捉えることの意義、家族の捉え方、家族看護に関する理論を学ぶ。在宅療養者・家族が自らの健康を主体的に解決していくために必要とされる家族看護の基本的な考え方と援助方法を理解し、療養者のみでなく家族をアセスメントできる視点を学ぶ。</p> <p>[科目修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護の概念及び、家族看護における看護者の役割を説明できる。 2. 家族看護に活用できる諸理論について説明できる。 3. 地域における家族看護上の留意点が説明できる。 <p>【実務経験】佐藤洋子・林晶子:保健師(佐藤)・看護師(林)として5年以上の実務経験。 地域や病院での看護実践を教材とし、学生が学びやすい工夫を行い授業を行う。</p> <p>【準備学習】□ 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う。</p> | | | |
| [授業の内容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| 1 | 家族看護の概念 | 1. 家族の理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族の定義・機能 ・現在のわが国の家族の特徴 |
| 2 | " | 2. 地域看護の対象としての家族 | |
| 3 | 家族をみる基盤としての生活力量モデル | 3. 家族生活力量モデル | <ul style="list-style-type: none"> ・家族生活力量の構成要素 ・家族アセスメントの視点、アセスメント |
| 4 | | 4. 家族生活力量の構成要素 | |
| 5 | | 5. 家族アセスメントの視点、アセスメントスケール | |
| 6 | 家族看護のための諸理論(林担当) | 1. 家族発達理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・諸理論の特徴の理解 ・家族のライフサイクルと家族発達理論 ・家族のセルフケア機能について |
| 7 | | 2. 家族セルフケア理論 | |
| 8 | " | 3. 家族システム理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・自立への過程と援助方法 ・システムの特徴とアプローチ ・エコマップとジェノグラム |
| 9 | " | | |
| 10 | " | | |
| 11 | " | 4. 家族危機理論 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジェットコースターモデル、ABCXモデル ・二重ABCXモデル ・危機モデル |
| 12 | 家族看護の実際と看護職の役割 | 事例を用いて家族支援のあり方を考える | <ul style="list-style-type: none"> ・ラポールの形成 ・本人・家族の力量と主体を引き出す ・個々の家庭に応じた技術の創造 ・評価の視点、方法、時期の理解 |
| 13 | | | |
| 14 | 家族介護者の健康 | 1. 介護負担 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な介護負担の要因 ・社会資源の活用とレスパイトケアについて |
| 15 | まとめ | 2. 家族介護者への支援 上記学習内容の確認等 | |
| 試験 | | 上記終了科目終了試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・櫻井尚子他:ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア, メディカ出版 [参考図書] ・鈴木和子他編:家族看護学—理論と実践、日本看護協会出版会 ・木下由美子:Essentials 在宅看護学.医歯薬出版 | | <ol style="list-style-type: none"> 1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)授業参加状況(出席状況を含む)を考慮する | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科/学年 | 年度 | 授業形態 |
|---|------------------|--|--|
| 救急蘇生法 I | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30 時間) | 必須 | 林 晶子他(実務経験有) |
| <p>[授業の目的・ねらい] 万が一の事故などによるけがや発病のため、生命の危険が伴う場合の手当てなどについて、正しい知識を学び技術を実践できることは将来の医療者を目指すものとして大切なことである。そのために今までの看護基礎教育で学んだ構造学・機能学・看護技術などをもとに学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1.生命に危険が伴う場合の手当てについて正しい知識を習得することが出来る 2.生命に危険が伴う場合の手当てについて正しい技術を習得することが出来る</p> <p>【実務経験】林晶子他:看護師として5年以上の実務経験。 これまでの看護実践経験を教材とし、学生が学びやすい工夫を行い知識・技術を修得。</p> <p>【準備学習】□ 授業内容の復習ならびにテキストによる予習を行う。</p> | | | |
| [授業の内容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| 1 | 生命に危険が及ぶ状況を理解できる | 1)本授業のねらいと学習内容 | 救命率の向上に必要なこと、心停止の予防、心停止の早期認識、早期救命処置の開始 |
| 2 | 〃 | 1)心停止の早期認識 2)早期救命処置の開始 | 救助者自身の安全の確保、状況の観察 |
| 3 | 一次救命処置の実際 | 1)心肺蘇生法、AED | ・心臓発作、脳卒中 |
| 4 | 〃 | 2)AEDの使用 | ・気道異物、誤飲 |
| 5 | 〃 | 3)医療機関へ搬送 | |
| 6 | | | |
| 7 | 応急手当 | 1)外傷の手当 ・止血法、包帯法 | ・多量出血、咬創、熱傷 |
| 8 | 〃 | 2)外傷外の手当て ・ショック体位、固定法など | ・骨折、脱臼、肉離れ、アキレス腱断裂 |
| 9 | 子どもの応急手当 | 1)子どもに起こりやすい事故 | ・熱中症、中毒、けいれん、腹痛 |
| 10 | 〃 | 2)子どもの気道異物の応急手当 ・背部叩打法、ハイムリック法 | 家の中、周囲の環境整備 |
| 11 | 〃 | 3)子どもの水の事故と応急手当 | ・気道異物、誤飲 ・溺水 |
| 12 | 医療機関へ引き継ぎ | 1)連絡と搬送 | |
| 13 | まとめ | 1)上記内容の復習と演習 | |
| 14 | 〃 | 〃 | |
| 15 | | | |
| | 試験 | 上記終了後、期末試験 | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| 1)授業時に提示します | | 赤十字救急法基礎・救急員養成講習会講義を受け演習に参加しているものが試験に参加できる 科目終了時の実技試験、筆記試験:100% 再試はありません | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科 / 学年 | 年度 | 授業形態 |
|--|--------------------------|---|--|
| 看護技術演習Ⅱ | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義・演習・実習 |
| 授業の回数(×90分) | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| 15回 | 1単位 (30時間) | 必須 | 吉田 展子/南原 由理子 (実務経験有) |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>看護実践には対象者がどのような看護を必要としているかを的確に捉え、判断する能力と科学的根拠に基づいて実践する能力が必要である。ここでは基礎・成人・母性領域において基盤となる観察技術や情報収集から必要な日常生活援助を見出し、実施・評価できることをねらいとする</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサインの観察結果から事例をアセスメントし、日常生活援助計画の立案ができる 2. 援助計画に基づいて援助を実施し、安全・安楽の視点から目的達成状況を評価できる 3. 自己の基本技術習得レベルを知り、自己の課題を明確にすることができる 4. 新生児のモデル人形を用いて、安全で安楽な沐浴の援助ができる <p>【実務経験】吉田展子(成人Ⅰ)・南原由理子(基礎Ⅱ):看護師として5年以上の実務経験。 学生の実習到達目標をふまえ学習到達状況にあわせて、知識・技術・態度の統合が図れるよう支援する。</p> <p>【準備学習】□ 事例対象を理解できるよう学習に取り組む。また、事例患者に必要な看護援助について練習する。</p> | | | |
| [授業の内容] | | | |
| 回 | 単 元 | 内 容 | 学習のポイント |
| 1 | 基礎看護学領域技術演習 オリエンテーション | 1)科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示 | |
| 2 | 基礎看護学領域技術演習 オリエンテーション | 2)模擬事例のニーズを明確化し援助内容 の抽出 | |
| 3 | 基礎看護学領域技術演習 | ・食事・排泄・清潔・移動 | |
| 4 | " | 3)援助計画の立案 目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点 の明確化 | ・ニーズを満たすために援助方法 の工夫をグループ内でディスカッ ションし、よりよい技術を追求する |
| 5 | " | 4)計画に基づいた援助の実施と評価 実施内容の記載と評価・援助計画 の追加と修正 | ・病態を理解し患者の安全・安楽を考慮 したフィジカルアセスメントが出来る。 |
| 6 | " | 5)演習の振り返り | |
| 7 | 技術試験 | 6)技術評価 | ・グループディスカッションし、より良い技 術を根拠をもって行うことが出来る。 |
| 8 | 成人看護学領域技術演習 オリエンテーション | 1)科目のねらい、学習方法の説明 事例・課題の提示 | |
| 9 | 成人看護学領域技術演習 オリエンテーション | 2)模擬事例のニーズを明確化し援助内容 の抽出 | |
| 10 | 成人看護学領域技術演習 | ・食事・排泄・清潔・移動 | |
| 11 | " | 3)援助計画の立案 目的、根拠、安全・安楽の視点での留意点 の明確化 | ・ニーズを満たすために援助方法 の工夫をグループ内でディスカッ ションし、よりよい技術を追求する |
| 12 | " | 4)計画に基づいた援助の実施と評価 実施内容の記載と評価・援助計画 の追加と修正 | ・病態を理解し患者の安全・安楽を考慮 したフィジカルアセスメントが出来る。 |
| 13 | " | 5)演習の振り返り | |
| 14 | 技術試験 | 6)技術評価 | ・グループディスカッションし、より良い技 術を根拠をもって行うことが出来る。 |
| 15 | 講義と演習 | 新生児の沐浴 新生児の生理的变化 | DVD視聴 |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| ・各領域で使用したテキストと資料 | | <ol style="list-style-type: none"> 1) 評価は技術試験100%とする。(基礎Ⅱ50%・成人Ⅰ50%) 2) 技術試験に合格した者が以後の実習に参加することができる 3) 技術試験は演習の全時間を履修したものが臨むことができる | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科 目 名 | 学 科 / 学 年 | 年 度 | 授 業 形 態 |
|--|--------------|--|----------------------------|
| 基礎看護学Ⅱ実習 | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 |
| 授業時間数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授 業 担 当 者 |
| | 2単位 (90 時間) | 必須 | 南原 由理子 / 吉田 展子他 (実務経験有) |
| <p>[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]</p> <p>看護の対象である人間を生活者として全人的、個別的に捉え、疾患や障害、治療による生活への影響を看護上の問題としてとらえる視点を養う。健康回復のための個別性に応じた日常生活援助方法を看護過程の思考に基づいて立案、実践、評価できることをねらいとする。</p> <p>[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象のニーズを把握し看護過程の展開ができる。 2. 対象に応じた介入方法を選定し、日常生活援助が実施できる。 3. 基本的看護技術(標準予防策、ボディメカニクス、コミュニケーション、フィジカルアセスメント)を実施できる。 4. 看護学生として対象を尊重する態度がとれる。 <p>【実務経験】南原・吉田他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】□ 実習に行く前に実習の手引きとオリエンテーション資料を熟読するとともに事前学習に取り組む</p> <p>[授 業 の 内 容]</p> <p><実習展開> 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.各グループごとに配置された実習病棟で臨床指導者、担当スタッフ、教員の指導のもとに看護ケアを実施する。 2.一名の患者を受け持ち、日常生活援助を中心とした看護過程を展開する。データベースをもとに情報収集から看護計画を立案し、それに基づいてケアを実施、評価を行う。 3.その他、基礎看護技術チェック項目等をもとに計画した技術の実践、検査等の見学実習を行う。 | | | |
| [参考資料] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③基礎看護技術 メディカ出版 ・竹尾恵子:看護技術プラクティス 改訂3版、学研 ・日本看護診断学会監訳:NANDA-I看護診断 定義と分類、医学書院 | | <ol style="list-style-type: none"> 1)実習評価表に示す基準に基づいて評価する 方法:実習状況、実習記録、レポート、出席状況から行う | |

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

| 科目名 | 学科 / 学年 | 年度 | 授業形態 |
|---|--------------|--|---------------------|
| 成人看護学 I 実習 | 看護学科/2年次 | 令和3年度 | 講義 ・ 演習 ・ 実習 |
| 授業の時間数 | 単位数(時間数) | 必須・選択 | 授業担当者 |
| | 2単位 (90 時間) | 必須 | 吉田 展子 他(実務経験有) |
| <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>成人看護学 I 実習では、成人期の特徴を踏まえ健康障害に応じた看護過程の展開方法を理解し、看護支援ができる。チームの一員として基礎的知識・技術・態度を養う。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象の発達課題・健康障害を踏まえた看護過程を展開できる。 2. 成人期にある対象とその家族の特性が理解できる。 3. 対象を生活者として捉え、病院から地域への継続について考えることができる。 4. チームにおける看護職の役割を自覚し、看護学生としての責任を遂行することができる。 <p>【実務経験】吉田展子他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】□ 実習に行く前に実習の手引きとオリエンテーション資料を熟読するとともに事前学習に取り組む</p> | | | |
| <p>内容と計画</p> <p>実習病院において、検査・治療をうける成人患者を受け持ち、以下の目標にそって、3週間の実習を行なう。 その間、受け持ち患者の健康レベルに応じて実習を行なう。 (詳細については、実習手引き参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床現場において、成人期の特徴を踏まえ健康障害に応じた看護過程の展開方法を理解し、基礎的能力を身につける。 2. 対象の疾病の特徴と提供している治療や看護を理解し、科学的根拠に基づいたケアの実践的能力を身につける。 3. 臨床の現場で学ぶことにより、自己の看護観を深め、専門職としての自覚をもつ。 | | | |
| [使用テキスト] | | [単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・疾病治療学 I ～IV、成人看護学概論、成人看護方法論 I ～IV、で使用したテキスト ・臨床外科看護総論・各論のテキスト ・日本看護診断学会監訳:NANDA-I看護診断 ・竹尾恵子:看護技術プラクティス 改訂3版、学研 | | <p>実習への参加状況および態度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)</p> | |